

本書は熟読の上、大切に保管してください

N8160-29/N8160-30

外付DLT集合型/DLT集合型(ラックマウント用)

取扱説明書

まえがき

本書は、N8160-29 外付DLT集合型/N8160-30 DLT集合型(ラックマウント用)を正しく安全に使用するための手引きです。本装置を取り扱う前に必ずお読みください。また、本装置を使用するうえでわからないこと、不具合が起きたときにもぜひご利用ください。

基本処理装置本体の取り扱いについての説明は、基本処理装置に添付のマニュアルを参照してください。

なお、本装置を取り扱う前に2ページの「安全上のご注意」、4ページに示す「使用上のご注意」を必ずお読みください。

本書では、「N8160-29 外付DLT集合型」と「N8160-30 DLT集合型(ラックマウント用)」をまとめて「本装置」、または「オートローダ」と記載しています。2つのモデルで記載内容が異なる場合にのみモデル名をあげて説明しています。


※ DLTとDLT tapeは、Quantum社の商標です。


本書の構成

- | | |
|-----|---|
| 第1章 | オートローダのインストール：接続、電源投入の方法を説明します。 |
| 第2章 | オートローダの操作：フロントパネルのメニュー構造、メニューツリー、テープのロード/アンロード、ドライブの操作について説明します。 |
| 第3章 | オートローダの管理：設定オプション、診断テスト、オートローダ情報の取得方法について説明します。 |
| 第4章 | トラブルシューティング：オートローダに発生した問題のトラブルシューティング、エラー状態の解決について説明します。 |
| 付録A | 技術仕様：ドライブ、環境、オートローダ、物理、テープの各仕様を記載します。 |
| 付録B | 別売品、および消耗品：別売品、および消耗品について記載しています。 |
| 付録C | 運用状況お客様シート：装置やシステムの使用状況をメモする一覧表です。本装置の移設やシステムの移行の際、および保守の際に有用な情報となります。セットアップが完了した後に必要事項を記入してください。 |

安全上のご注意










ご使用前にこの「安全上のご注意」をよく読んでご理解し、本装置をより安全にご活用ください。ここに示した注意事項は本装置を安全にお使いいただき、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するものです。また、注意事項では危害や損害の大きさと切迫の程度を明らかにするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので必ずお守りください。

 警告	指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。
取り付け・取り外し・分解・修理・改造はしない	保守作業員以外の人は、絶対に取り付け・取り外し・分解・修理・改造を行わないでください。感電したり、発火したり、異常動作してけがをすることがあります。
煙や異臭、異音が生じたり、破損したまま使わない	万一、破損したり、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに電源スイッチをOFFにして電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、販売店、または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。
針金や金属片を差し込まない	通気孔などのすきまから金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。

 注意	指示を守らないと、火傷やケガのおそれ、および物的損害の発生のおそれがあることを示します。
指定外のコンセントに差し込まない	電源は指定された電圧、電源の壁付きコンセントをお使いください。指定外の電源を使うと火災や漏電の原因となります。
指定以外の電源コードは使わない	本装置に添付されている電源コード以外のコードを使わないでください。電源コードに定格以上の電流が流れると、火災になることがあります。
電源コードをたこ足配線にしない	コンセントに定格以上の電流が流れるので、コンセントが過熱して火災の原因となります。
コードを持って引き抜かない	電源プラグを抜くときは必ずプラグ部分を持って行ってください。コード部分を引っ張るとコードが破損し、火災や感電の原因となります。
プラグを抜かずにケーブルの取り付け・取り外しをしない	ケーブル等の取り付け・取り外しは、本装置の電源をOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。電源プラグを接続したまま装置内部の部品やケーブル、コネクタに触れると感電したり、ショートによる火災の原因となります。
中途半端に差し込まない	電源プラグは根本までしっかりと差し込んでください。中途半端な差し込みは接触不良の発熱による火災の原因となることがあります。また中途半端な差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付いたとき発熱し、火災になることがあります。

 注意 指示を守らないと、火傷やケガのおそれ、および物的損害の発生のおそれがあることを示します。	
電源コードを折り曲げない 電源コードを無理に曲げたりねじったり、束ねたり、ものを載せたり、はさみ込んだりしないでください。またステーブラ等で固定することもおやめください。コードが破損し、火災や感電の原因となります。	
損傷した電源コードを使わない 損傷した電源コードはすぐ同じものと取り替えてください。決して損傷部分を補修してお使いにならないでください。ビニルテープなどで補修した部分が過熱し、火災の原因となります。電源コードの購入については、販売店、または保守サービス会社にご連絡ください。	
電源コードに薬品類をかけない 電源コードに殺虫剤などの薬品類をかけないでください。コードの被覆が劣化し、感電や火災の原因となることがあります。	 
損傷したケーブルは使わない ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れていないことを確認してください。コネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れていたりすると、ショートにより火災を引き起こすおそれがあります。	
装置内に水や異物を入れない 装置内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐ電源をOFFにして、電源プラグをコンセントから抜いてください。分解したりしないで販売店、または保守サービス会社にご連絡ください。	 
一人で持ち上げない 本装置は約23kgの重さがあります。一人で持つと腰を痛めることがあります。運搬・移動は必ず二人で行ってください。また、本装置背面のドライブモジュール部(13ページ参照)にあるドライブ取り出し用の取っ手を持って持ち上げないでください。本装置が落下してけがをするおそれがあります。	
プラグを抜かずに手入れをしない お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、ぬれた手で抜き差しをしないでください。感電することがあります。	
巻き込み注意 装置の動作中は背面にある冷却用ファンの部分に手や髪の毛を近づけないでください。手をはさまれたり、髪の毛が巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。	
雷が鳴ったら触らない 雷が発生しそうとき、また雷が鳴りだしたらケーブル類も含めて装置には触れないでください。感電の原因となります。	 
装置の近くで携帯電話やPHS、ポケットベルを使用しない 本装置の近くで携帯電話やPHS、ポケットベルを使用しないでください。誤動作の原因となることがあります。	
壊れた液晶ディスプレイには触らない 液晶ディスプレイ内には人体に有害な液体があります。壊れた液晶ディスプレイから流れ出た液体が、万一、口に入った場合は、すぐにうがいをし、医師に相談してください。また、皮膚に付着したり、目に入った場合は、すぐに流水で15分以上洗浄して、医師に相談してください。分別廃棄のために液晶ディスプレイを取り外す場合は、販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。	 

記号の意味

-  : 分解禁止
 : 感電注意
 : 火災注意
 : 毒物注意
 : 巻き込み注意
 : 接触禁止
-  : プラグを抜いて!!
 : 絶対に行わないでください
 : 記述に従った操作を行ってください

使用上のご注意

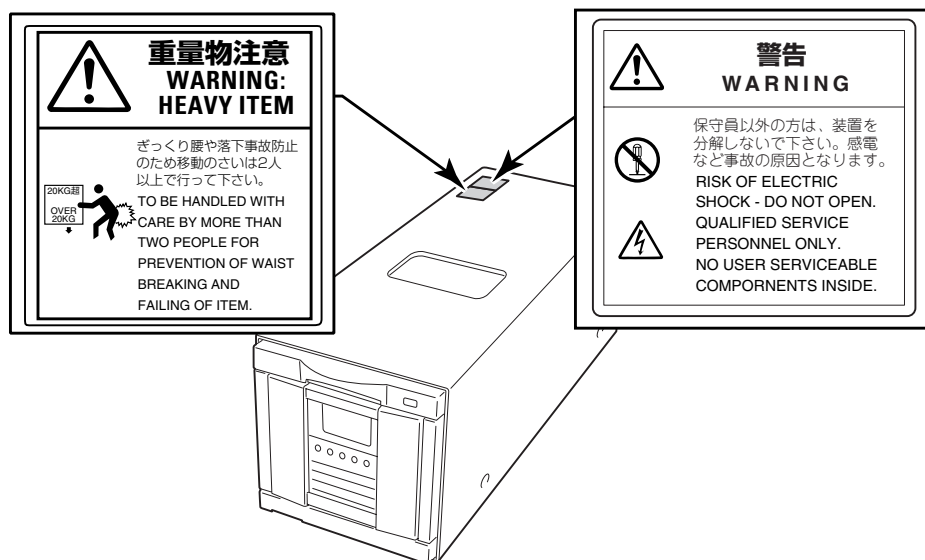
本装置を使用するときに注意していただきたいことを次に示します。これらの注意を無視して装置を使用した場合、本装置または資産(データやその他の装置)が破壊されるおそれがありますので必ずお守りください。

警告ラベルについて

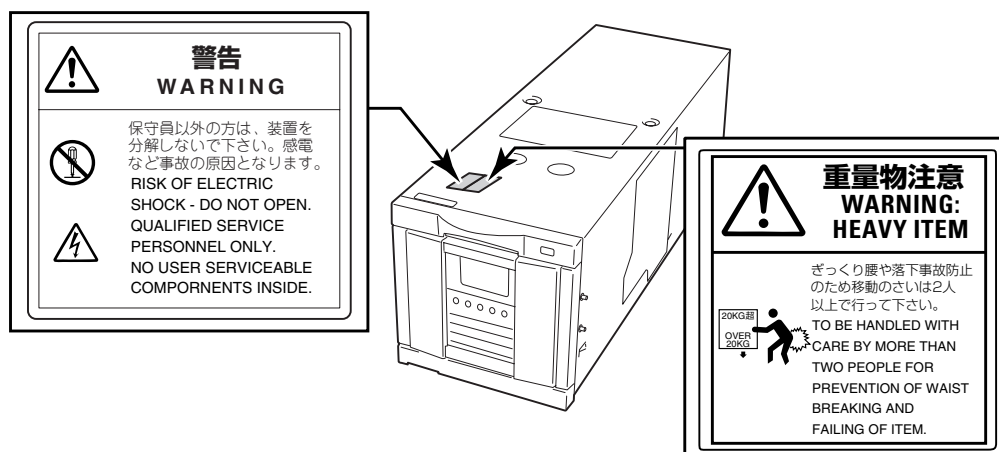
本装置内の危険性を秘める部品やその周辺には警告ラベルが貼り付けられています。これは本装置を操作する際、考えられる危険性を常にお客様に意識していただくためのものです(ラベルをはがしたり汚したりしないでください)。

もしこのラベルが貼り付けられていない、はがれかかっている、汚れているなどして判読できないときは販売店にご連絡ください。

<N8160-29>



<N8160-30>



装置の廃棄について

本装置ならびにカートリッジテープやクリーニングテープの廃棄については各自治体の廃棄ルールに従ってください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。

注意



液晶ディスプレイ内には人体に有害な液体があります。壊れた液晶ディスプレイから流れ出た液体が、万一、口に入った場合は、すぐにうがいをし、医師に相談してください。また、皮膚に付着したり、目に入った場合は、すぐに流水で15分以上洗浄して、医師に相談してください。分別廃棄のために液晶ディスプレイを取り外す場合は、保守サービス会社にお問い合わせください。

その他

- 本装置が動作している間は電源をOFFにしないでください。本装置の故障の原因となったり、記録したデータを失ったりすることがあります。
- 本装置が動作している間は、システムの終了、および再起動をしないでください。システムの終了、または再起動をするときは本装置が停止していることを確認した後に行ってください。
- マガジンの挿入／取り出しは、本装置が挿入／取り出しを行える状態になっていることを確認してから行ってください。無理にマガジンを挿入したり取り出したりすると、本装置ならびにマガジンが破損することがあります。
- カートリッジテープ以外のものをマガジンに入れないでください。本装置の故障の原因となります。特にカートリッジテープをケースから取り出すときに、カートリッジテープの取扱説明書やラベルなどがくっついていることがありますので注意してください。
- カートリッジテープが本装置のテープドライブ内に挿入された状態で本装置の電源をOFFにしないでください。カートリッジおよび本装置の故障の原因となったり、記録したデータを失ったりすることがあります。
- N8160-30 DLT集合型(ラックマウント用)は必ずラックに搭載してご使用ください(ラックに搭載するためには別売の「N8560-31/N8160-31 DLT集合型ラックマウント搭載キット」が必要です)。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策について

この装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置(UPS)等を使用されることをお勧めします。

海外での使用について

この装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 本製品を第三者へ譲渡・売却する際は必ず本書も添えてください。

目次

まえがき 1

本書の構成	1
△ 安全上のご注意	2
使用上のご注意	4
警告ラベルについて	4
装置の廃棄について	5
その他	5

第1章 初めてお使いになるとき 9

本装置の特長	9
箱の中身	10
各部の名称	12
装置前面(フロントパネル)	12
装置背面(リアパネル)	13
マガジン	13
セットアップ	14
使用前の準備	14
ケーブルの接続	15
電源ONと電源投入シーケンス	18
SCSI IDの設定	19
システムの起動と終了	19

第2章 集合DLT装置の取り扱い 21

カートリッジテープについて	21
カートリッジテープの取り扱い上の注意	21
カートリッジテープの書き込み保護スイッチ	22
ラベル/バーコードラベルの取り付け位置	23
マガジンにラベルを付ける	24
マガジンにテープを入れる	24
オートローダ内のテープの取り出し/挿入	25
正面マガジンからの取り出し/挿入	25
内部背面スロットのテープの取り出し/挿入	27
ドライブの操作とテープの取り扱い	28
ドライブへのテープの挿入	28
ドライブからのテープの取り出し	28
ドライブのクリーニング	29
傷んだテープ	30
データのセーブについて	31
正副2巻にバックアップ	31
データの3世代管理について	31

第3章 オペレータパネルの操作 33

ネスティング	33
フロントパネルディスプレイの規約	34
フロントパネルステータス情報(ホームスクリーン)	34
アイコン	35
メニューツリー ~フロントパネルのメニュー構造~	36
オートローダの設定	37
パスワードの使用と変更	38
操作モードの選択	39
日付と時刻の設定	41
オートローダに関する情報の取得	43
オートローダ用診断テストの実行	46

第4章 障害処理ガイド 49

トラブルシューティングの概要	49
エラーの種類	50
エラーの状態	51
ソフト(回復した)エラー	51
一部利用可能な状態	52
ハード(回復不可能な)エラー	54
ホストソフトウェアのエラーとメディアのエラー	56
エラー情報の発見と識別	57
一般的な問題のトラブルシューティング	60

付録A 仕様 63

本装置	63
カートリッジテープ(型番:EF-2413G)	63

付録B 別売品および消耗品 64

別売品	64
消耗品	64

付録C 運用状況お客様記入シート 65

索引	66
----------	----

～メモ欄～

第1章 初めてお使いになるとき

本装置を初めてお使いになる場合は、この章からお読みください。

ここでは、本装置の特長ならびに梱包箱を開けてから、本装置をご使用できるようにするまでの作業について説明します。

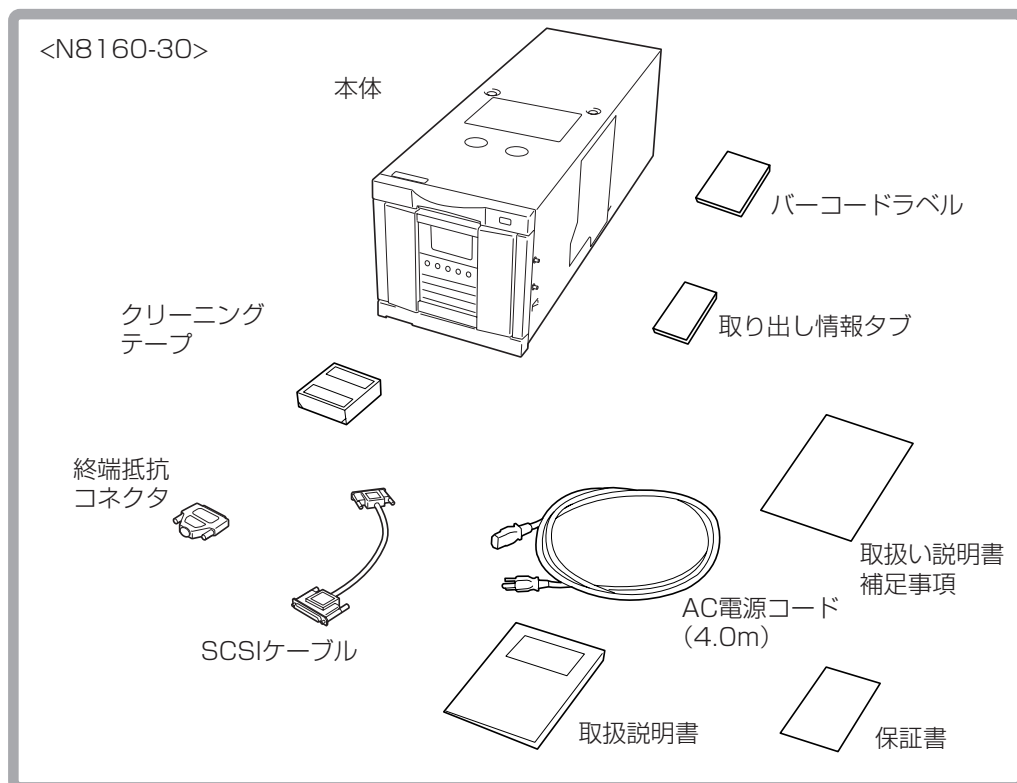
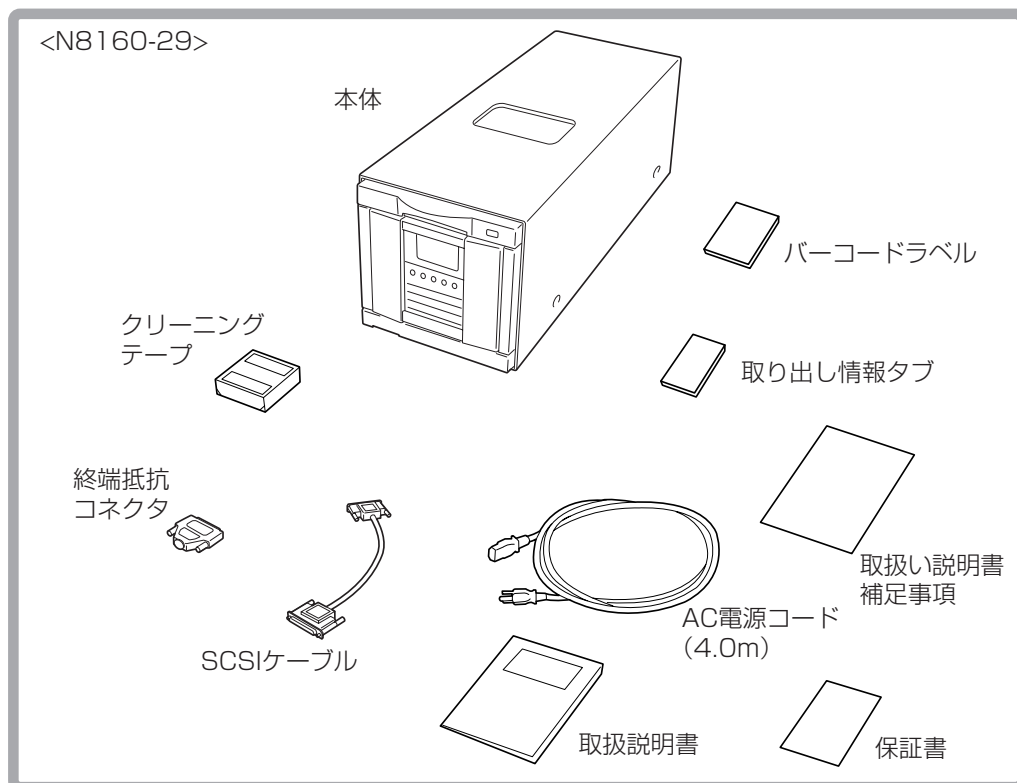
本装置の特長

本装置は、サーバ機器などのファイルシステム用に開発された外部記憶装置で、中位から最上位までのコンピュータシステムで使用するために設計された、大容量の高性能ストリーミングカートリッジテープ装置です。

- 本装置は、データの書き込み・読み取りを行うテープドライブ(1台)とデータカートリッジを格納するオートローダ(最大9巻格納可能)を内蔵している集合DLT装置です。
- 本装置は、ワイドディファレンシャルのSCSIインタフェースを有しており、1つのSCSIバス上で2つのIDを持った装置として機能します。
- 本装置が非圧縮モードで動作するときの最大転送速度(読み込み/書き込み時)は6MB/秒です。圧縮モード動作時の最大転送速度(読み込み/書き込み時)は12MB/秒です。
- カートリッジテープに記録できるデータ量は、非圧縮モード時で最大40GB、圧縮モード時で80GB(圧縮効率2倍時)です。(EF-2413Gのカートリッジ使用時)
本装置の場合、9巻のDLT tapeに非圧縮モードで最大360GB、圧縮モードで最大720GB(圧縮効率2倍時)の情報を記憶できます。
- データの圧縮機能により、カートリッジテープの容量は増加し、データを効率よく格納することができます。
- 使用するメディア(カートリッジテープ)は優れた耐久性とデータの信頼性を提供し、500,000回の読み込み/書き込み動作に耐えます。
- 本装置は、バーコードラベルを使用したデータカートリッジの運用管理が可能です。
- 本装置は、10GB、10GB+圧縮、20GB、20GB+圧縮、35GB、35GB+圧縮の記録密度でテープにデータの読み込み/書き込みができるため、他のDLT装置で記録したデータを使用することができます。テープの始め(BOT)からの書き込み時には、本装置のある記録密度でフォーマットされたテープと異なる密度を選択した場合にカートリッジテープを再フォーマットします。(使用できる記録密度は使用するカートリッジテープに依存します。)
- 本装置は、自己診断機能が組み込まれており、電源を投入すると自動的に自己診断テストを実行し、本装置自身に異常がないことを確認します。
- N8160-30 DLT集合型(ラックマウント用)をラックに搭載するには、別売の「N8560-31/N8160-31 DLT集合型ラックマウント搭載キット」が必要です。
- N8560-31/N8160-31 DLT集合型ラックマウント搭載キットは1キットのみでN8160-30 DLT集合型(ラックマウント用)を2台搭載することができます。
- N8160-30 DLT集合型(ラックマウント用)をラックに搭載するには、6U分の空きスペースが必要です。
- N8160-30 DLT集合型(ラックマウント用)は、6Uのスペースに2台まで搭載することができます。

箱の中身

梱包箱を開けて次のものがすべてそろっていることを確認し、それぞれの点検を行ってください。万一足りないものや損傷しているものがある場合には、販売店に連絡してください。

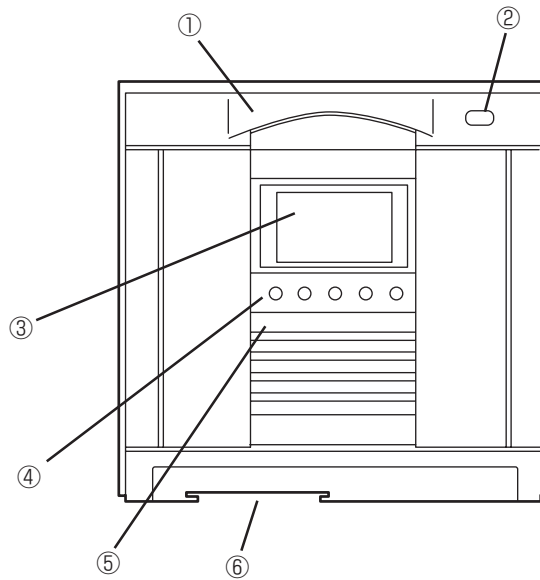


-
-
- 箱と緩衝材は装置の移動時や保管時に使用しますので大切に保管しておいてください。
 - 本装置には、データカートリッジテープは含まれておりません。販売店で別途購入してください(付録AおよびB参照)。
 - 本装置を譲渡する場合には、必ず本取扱説明書を併せて譲渡してください。
 - 『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡しします。記載内容を確認の上、大切に保管してください。保証期間中に故障した場合は『保証書』の記載内容に基づき無料修理いたします。
-
-

各部の名称

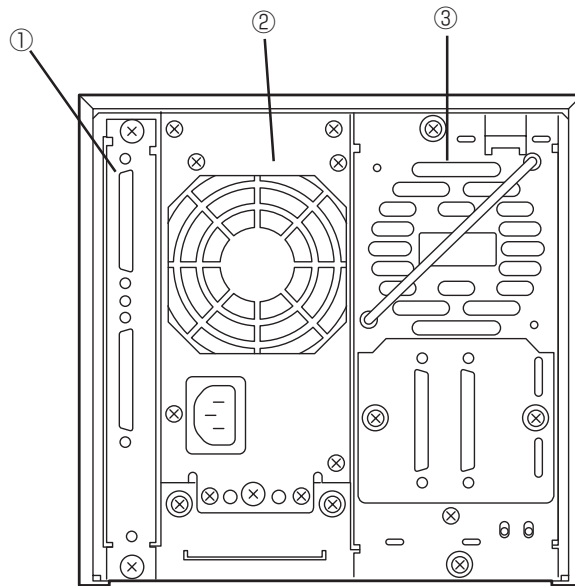
本装置の設置や取り扱い時に使用する部品の名前とその位置を示します。

装置前面(フロントパネル)



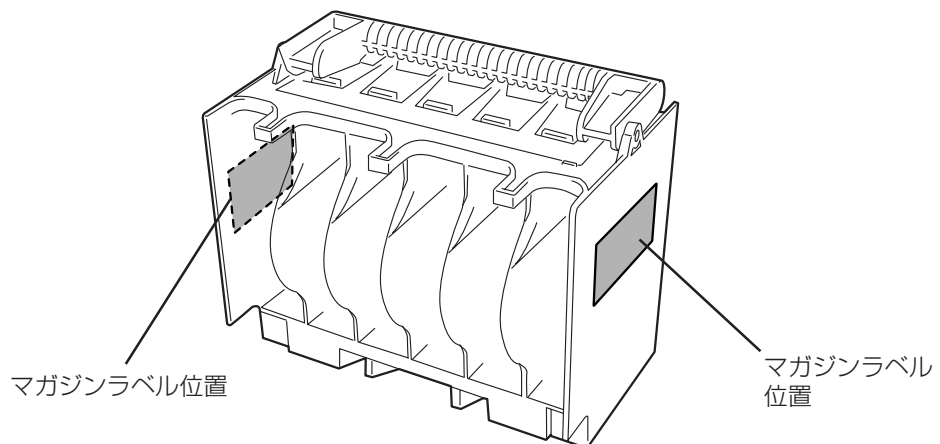
①	ドアハンドル
②	電源 (スタンバイ) スイッチ
③	前面パネルディスプレイ
④	ソフトボタンキー
⑤	LED状態バー
⑥	取り出し情報タブ用スロット

装置背面(リアパネル)



①	オートローダコントローラカード
②	電源装置
③	ドライブモジュール

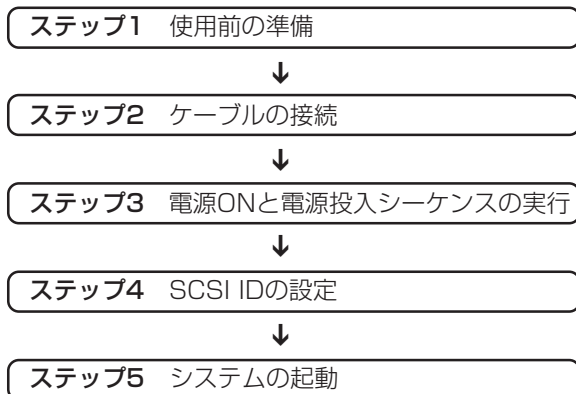
マガジン



* マガジンにはラベルが付いていませんがラベルを貼ることのできる場所は決まっています。

セットアップ

次の順序で本装置をセットアップします。



N8160-30 DLT集合型(ラックマウント用)のラックへの取り付け・取り外し作業は保守員が行います。



保守作業員以外の人は、絶対に取り付け・取り外し・分解・修理・改造を行わないでください。感電したり、発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

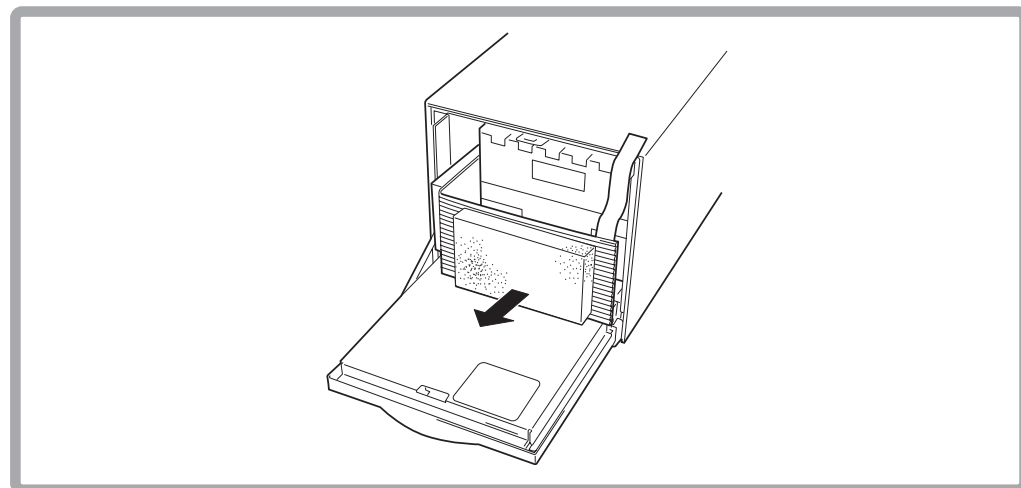
使用前の準備

本装置を使用する前に内部に取り付けられている保護用部材を取り外し、添付の取り出し情報タブを取り付けます。

保護用部材の取り外し

保護用部材を取り外してから電源をONにしてください。部材を取り付けた状態で電源をONにすると本装置が故障するおそれがあります。

本装置前面のドアを開け、マガジンの周囲を保護している部材を取り出してください。

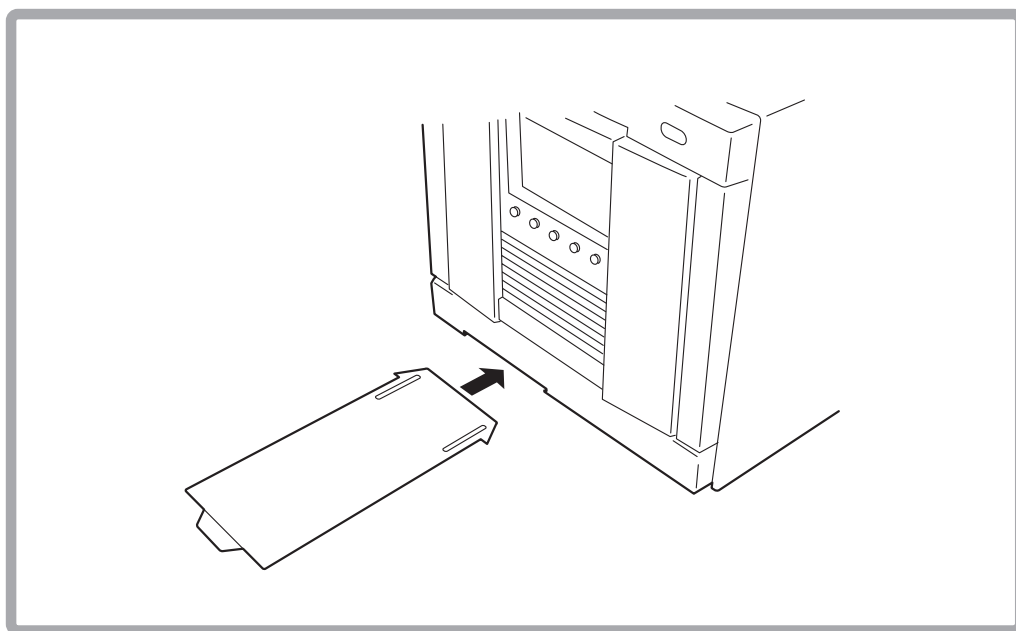


取り出し情報タブの取り付け

添付の「取り出し情報タブ」を本装置前面にあるスロットに差し込みます。タブは、日本語版の他に数カ国語分のタブが添付されています。

タブの印刷面を上、フック部分を先にしてスロットへ差し込みます。「カチッ」と音がしたら取り付けは完了です。

スロットには、1枚分のタブしか挿入できません。



ケーブルの接続



注意



本装置の接続を始める前に必ずサーバ/ワークステーションなどの基本処理装置の電源プラグをコンセントから引き抜いてください。コンセントに差し込んだまま作業を行うと感電するおそれがあります。

本装置と基本処理装置(または他のSCSI機器)をSCSIケーブルで接続します。本装置のSCSIコネクタは装置背面にあります。

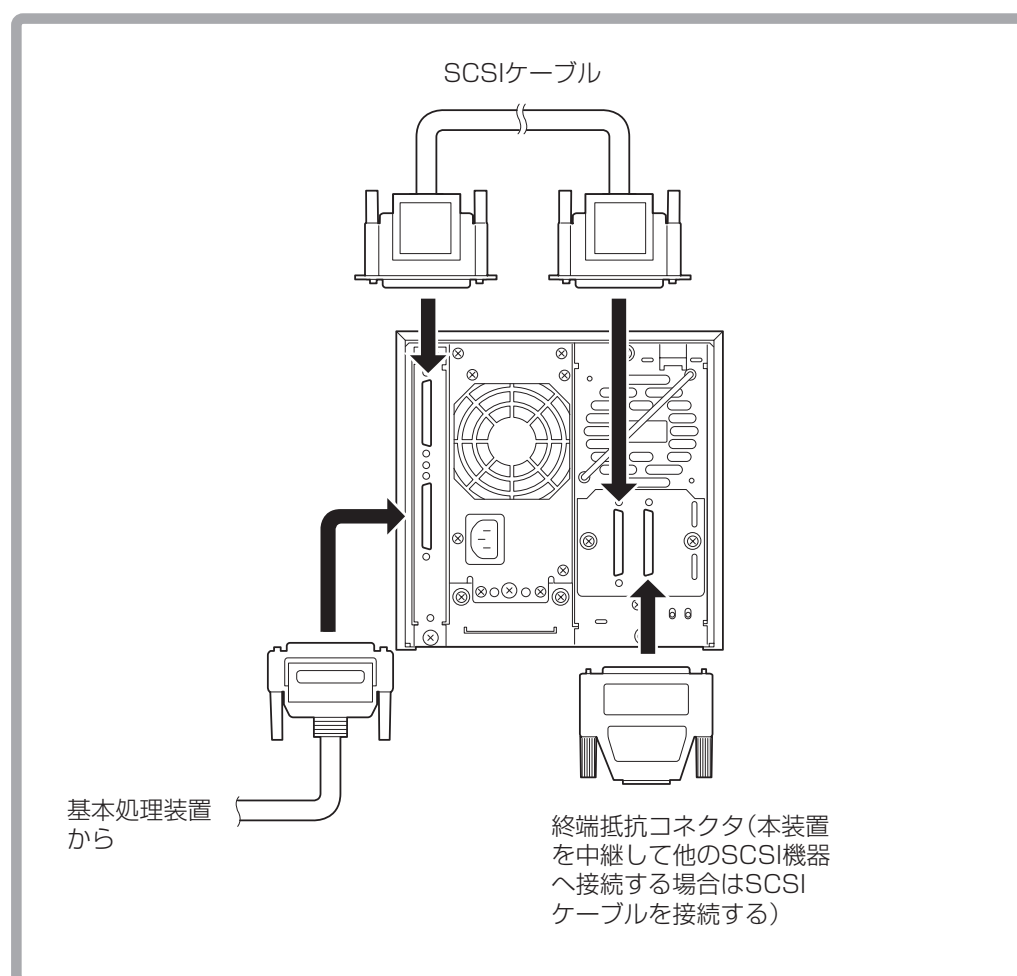
SCSIケーブルを接続するときは、SCSIケーブル接続で最遠端に位置する装置に終端抵抗コネクタを取り付けなければなりません。SCSIケーブル接続での本装置の位置を次の図で確認し、それぞれ該当するSCSI機器に必ず終端抵抗コネクタを取り付けてください。

● **本装置でSCSIケーブル接続が終わる場合**

次の手順に従ってSCSIケーブルを接続します。

- 1 基本処理装置、本装置およびSCSI機器の電源コードが接続されていないことを確認します。接続されている場合は電源コードを取り外してください。
- 2 SCSIケーブルの一方の端を本装置背面ドライブモジュール側のSCSIコネクタに接続します。
- 3 コネクタについている取り付けネジで固定します。
- 4 SCSIケーブルのもう一方の端を、基本処理装置(またはSCSI機器)のSCSIコネクタに接続します。
- 5 ドライブモジュール側のSCSIコネクタとオートローダコントローラカードのSCSIコネクタをSCSIケーブルで接続します。
- 6 終端抵抗コネクタを取り付けます。

- 本装置でSCSIケーブル接続が終わる場合は、本装置背面オートローダコントローラカードのSCSIコネクタに添付の終端抵抗コネクタを取り付けて取り付けネジで固定します。
- 本装置を中継して他のSCSI機器へ接続する場合は、本装置のオートローダコントローラカードのもう一方のSCSIコネクタにSCSIケーブルの一方の端を接続し、もう一方の端を他のSCSI機器へ接続した後、SCSIケーブル接続で最遠端に位置するSCSI機器に終端抵抗コネクタを取り付けます。



基本処理装置およびSCSI機器への接続方法については、基本処理装置およびSCSI機器に添付のマニュアルを参照してください。

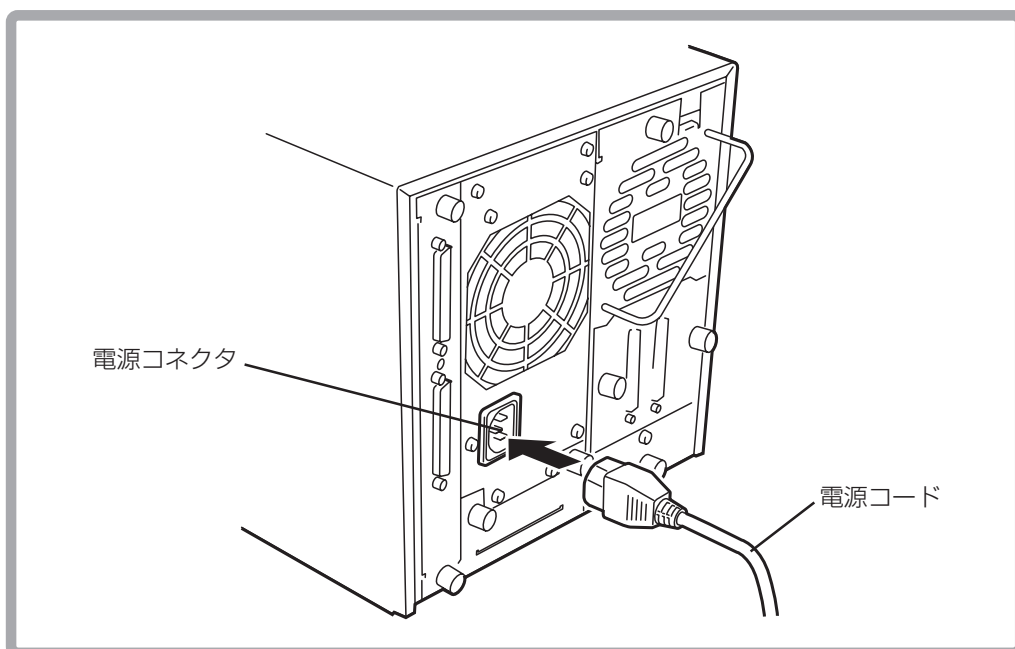
SCSIケーブルの接続を完了してから電源コードを接続します。

注意



電源コードは必ず添付のものをお使いください。指定以外のコードを使用すると火災の原因になるおそれがあります。

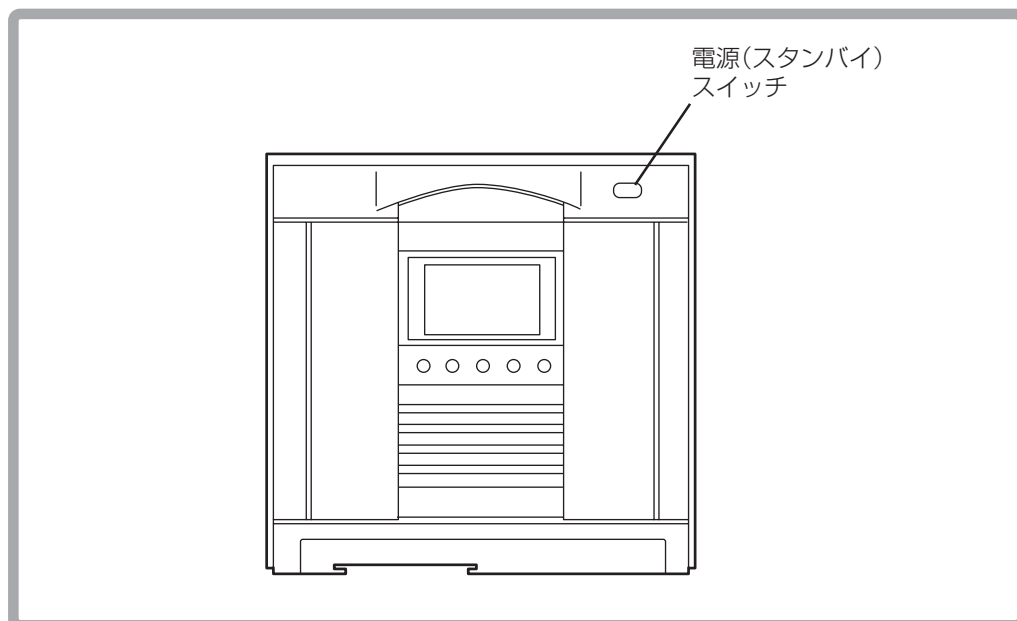
- 1 本装置の電源スイッチがOFFにセットされていることを確認します。
- 2 電源コードのプラグを、本装置の電源コネクタに差し込みます。プラグが完全に差し込まれていることを確認してください。
- 3 電源コードのもう一方の端を、手近のACコンセント(またはUPSのコンセント)に接続します。



電源ONと電源投入シーケンス

本装置の電源をONにすると、自動的に電源投入シーケンスを実行します。

- 1 電源コードを接続します。
- 2 オートローダの前面から、右上の角にある電源(スタンバイ)スイッチを押して電源を入れます。



本装置は電源がONになると電源投入シーケンスを実行します。電源投入シーケンスでは次のことが実行されます。

電源投入テストが終わると、オートローダのフロントパネル上にホームスクリーンが表示されます。ホームスクリーンは、ドライブ、テープ、オートローダの状態を示します。34ページの「フロントパネルステータス情報(ホームスクリーン)」をご覧ください。

SCSI IDの設定

本装置のSCSI IDが、基本処理装置や他のSCSI機器と重複していないことを確認してください。(工場出荷時、本装置のSCSI IDは以下のように設定されています。)
ここでは、工場出荷時のSCSI IDを見る方法と、必要に応じてそれを変更するときの方法を示します。

オートローダとテープドライブはそれぞれ独自のSCSI IDを持たなければなりません。本装置は、テープドライブとオートローダのIDの重複をできない仕様になっています。同一SCSIバス上の他のSCSI機器のIDについては、テープドライブ、およびオートローダと重複していないことを確認してください。

工場出荷時のSCSI ID

- テープドライブ : (1)
- オートローダ : (0)

SCSI IDの設定方法は40ページの「SCSI IDを設定する」をご覧ください。

システムの起動と終了

SCSI IDの設定が終わったら、基本処理装置および他の装置等の電源をONにして、システムを起動します。

システムを起動するときは、本装置(ならびに基本処理装置に接続している周辺機器)、基本処理装置の順に電源をONにして、システムを起動します。

システムの起動前にカートリッジテープをテープドライブにロードすると、カートリッジテープに記録されたデータの読み込み/書き込みが正常に行われなことがあります。

システムを終了するときは、基本処理装置、本装置(ならびに基本処理装置に接続している周辺機器)の順に電源をOFFにして、システムを終了してください。

-
- システムを終了する前に、カートリッジテープがテープドライブにロードされていないことを確認してください。カートリッジテープがテープドライブにロードされたままシステムを終了すると、この次にシステムを起動したときにカートリッジテープに記録されたデータの読み込み/書き込みが正常に行われなかったり、カートリッジや本装置の故障の原因となることがあります。
 - 本装置が動作している間は、システムの終了、および再起動をしないでください。システムの終了、または再起動をするときは本装置が停止していることを確認した後に行ってください。
-

～×モ欄～

第2章 集合DLT装置の取り扱い

本装置で使用するカートリッジテープの取り扱い、カートリッジテープの挿入／取り出し方法、マガジンの取り付け／取り出し方法など本装置の取り扱い方法について説明します。なお、本装置のオペレータパネルの操作方法については、第3章を参照してください。

カートリッジテープについて

本装置で使用できるカートリッジテープ(型番：EF-2413G)は、4インチ(約10センチ)のプラスチック製カートリッジテープで、ハーフインチ幅の磁気メタル粒子テープを約549メートル(1,800フィート)、カートリッジ内に収めています。

- NECが提供するカートリッジテープを使用することをお勧めします。
- 型番「EF-2413」のカートリッジテープも使用することができます。

カートリッジテープの取り扱い上の注意

記録済みまたは記録されていないカートリッジテープを長持ちさせるために、次の点に注意してカートリッジテープを取り扱ってください。(付録Aも参照してください。)

- カートリッジテープを落としたりたたいたりしないでください。このようなことをするとテープリーダーが外れ、カートリッジテープが使用できなくなり、本装置自身も損傷することになるおそれがあります。
- カートリッジテープを、コンピュータのモニタ、モータ、およびビデオまたはX線を使用する機器など、電磁波による電波障害の発生源の近くには置かないでください。カートリッジテープのデータが損なわれることがあります。
- カートリッジテープは直射日光を避け、ヒータその他の熱源から遠ざけて保管してください。
- カートリッジテープは、室内温度16℃～32℃、相対湿度20%～80%のほこりのない場所で保管してください。カートリッジテープをより長持ちさせるためには、室内温度23℃±5℃、相対湿度50%±10%の環境下で保管してください。
- カートリッジテープは、常に添付のプラスチック保護ケースに収納し、ポリ袋に入れて密封してください。
- ラベルは、カートリッジテープ前面にあるスライドインスロット以外の場所に取り付けしないでください。
- テープを手で触れないでください。また、カートリッジテープのカートリッジドアをむやみに開閉しないでください。
- 飲食や喫煙をしながらの取扱いは避けてください。また、クリーニング時はシンナーやアルコールなどが付着しないように注意してください。

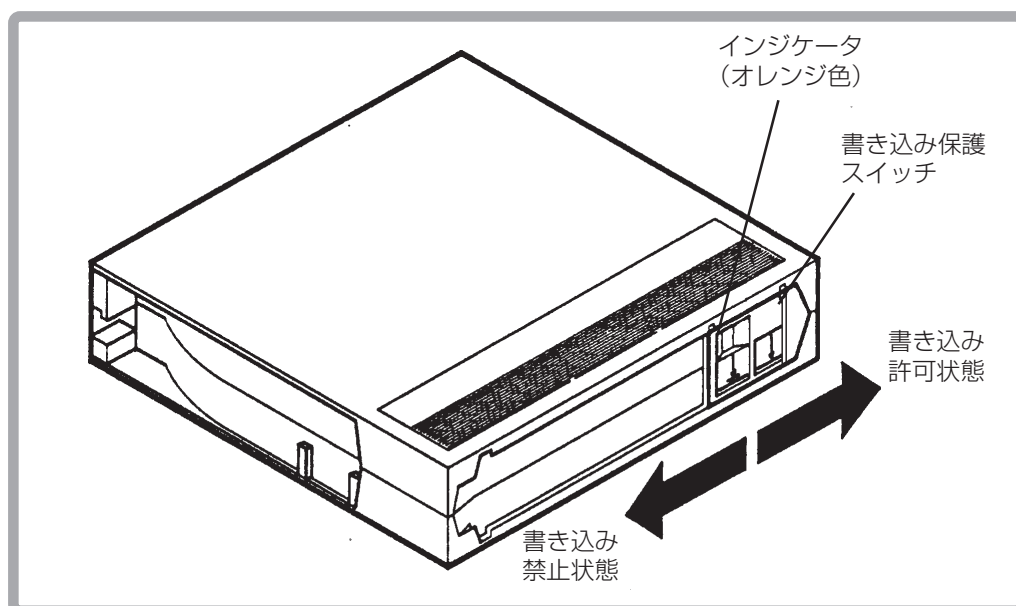
- カートリッジテープ以外のものをマガジンに入れないでください。本装置の故障の原因となります。特にカートリッジテープをケースから取り出すときに、カートリッジテープの取扱説明書やラベルなどがくっついていることがあります。
- 本装置に挿入するときは、ていねいに取り扱いってください。

カートリッジテープの書き込み保護スイッチ

カートリッジテープには、データを不用意に消去しないよう、書き込み保護スイッチがついています。カートリッジテープを本装置に挿入する前に、カートリッジテープ前面の書き込み保護スイッチの状態を確認してください。

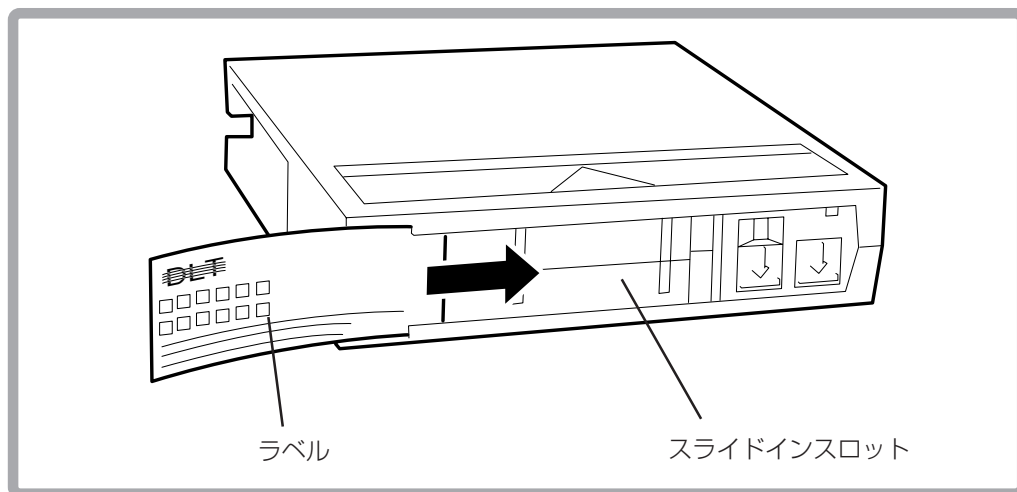
- 左へ寄せると、カートリッジテープへの書き込みが禁止されます。
- 右へ寄せると、カートリッジテープへの書き込みが可能になります。

スイッチを左へスライドさせると、小さなオレンジ色の四角形が見えます。これは、カートリッジテープにデータを書き込みできないことを意味します。



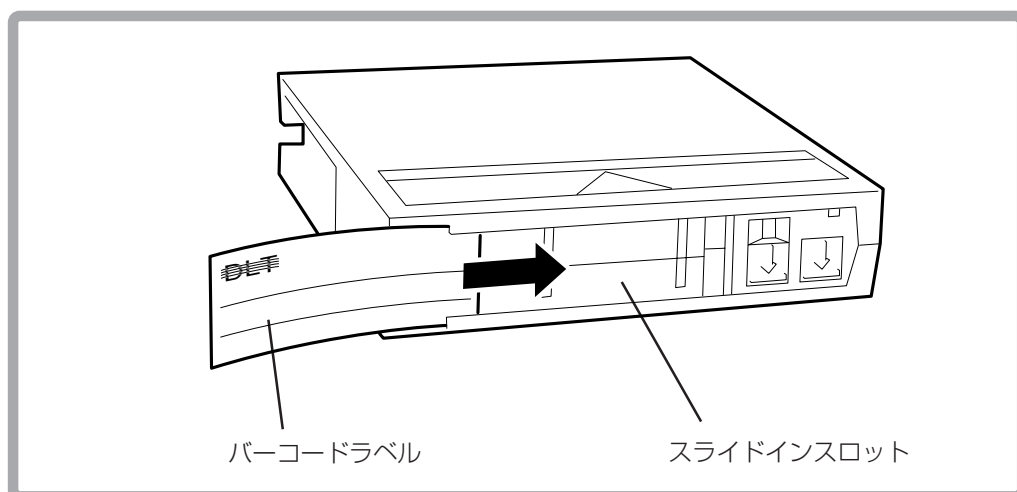
ラベル／バーコードラベルの取り付け位置

ラベルは、カートリッジテープの前面にあるスライドインスロットに取り付けることができます。カートリッジテープとそのテープに記録されたデータ内容を一目で確認することができますので、必ずデータの内容をカートリッジテープに添付のラベルに記載してからカートリッジテープに取り付けてください。



また、バーコードラベルも同様に取り付けることが可能です。

-
- バーコードラベルの向きは、間違えないよう確認してから取り付けてください。間違えて取り付けた場合は、バーコードラベルを正常に読み込めません。バーコードラベルを取り付ける際の向きは、下図を参照してください。
 - バーコードラベルは、必ずNEC指定のバーコードラベルを使用してください(付録B参照)。
-

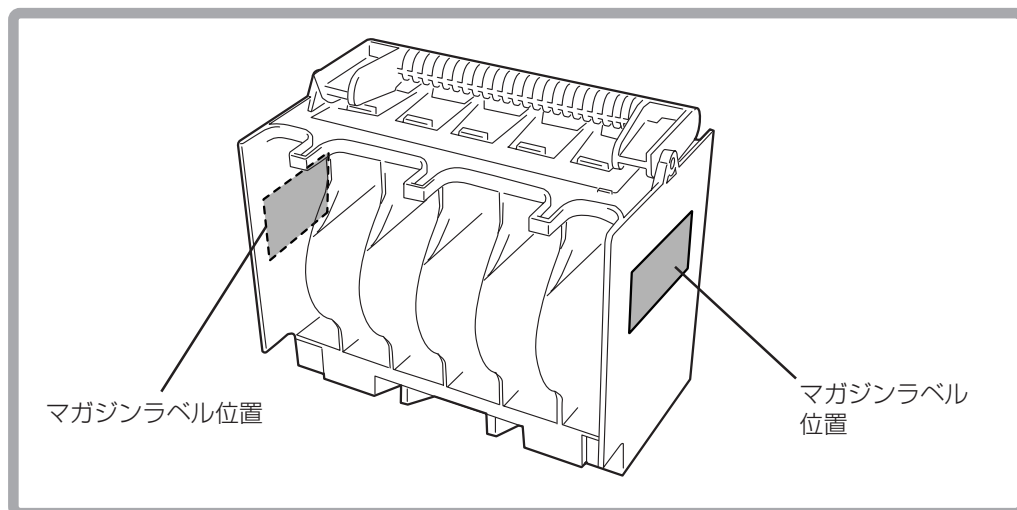


マガジンにラベルを付ける

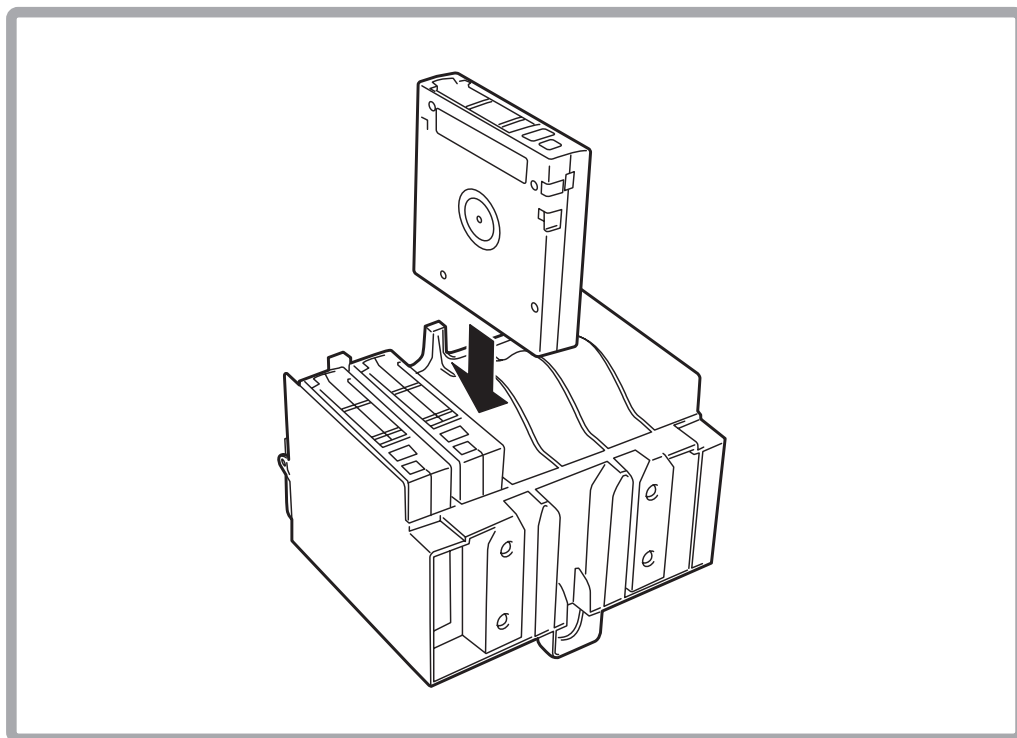
オートローダのバーコードリーダーは、マガジンのバーコードを読むことはできませんが、テープカートリッジ同様、マガジンにラベルを付けることもできます。

購入したマガジンはラベルが付いていませんが、ラベルを貼ることのできる場所は決まっています。

マガジンのラベル位置



マガジンにテープを入れる

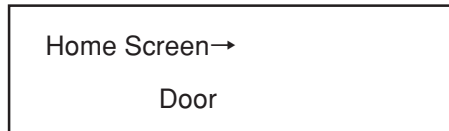


オートローダ内のテープの取り出し/挿入

次の機能を使用して、オートローダ内のテープを取り出すことができます。

- ・ 正面マガジンからの取り出し
- ・ 内部背面スロットからの取り出し (次ページ)

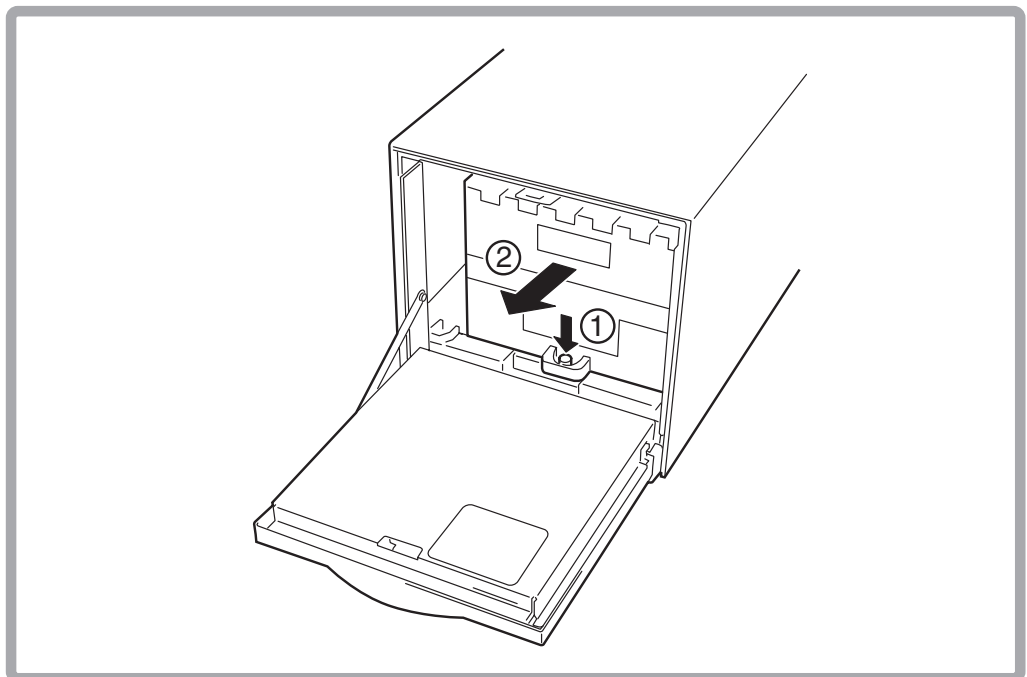
正面マガジンからの取り出し/挿入



- 1 ロック解除されたドアを下げて、マガジンとテープを取り外します。

ロック解除されているのにドアを開くことができなかった場合は、[Lock] を選択してドアを再度ロックしてください。この機能を実行するとインベントリチェックが実行されないため、時間の節約になります。また、本装置の電源スイッチがOFFになっている場合はロックを解除する必要はありません。

- 2 タブでマガジンを引き出した状態でマガジン底部の開放ボタンを押して、マガジンを取り出します。
- 3 マガジンの取っ手を持ってオートローダからマガジンを取り出します。



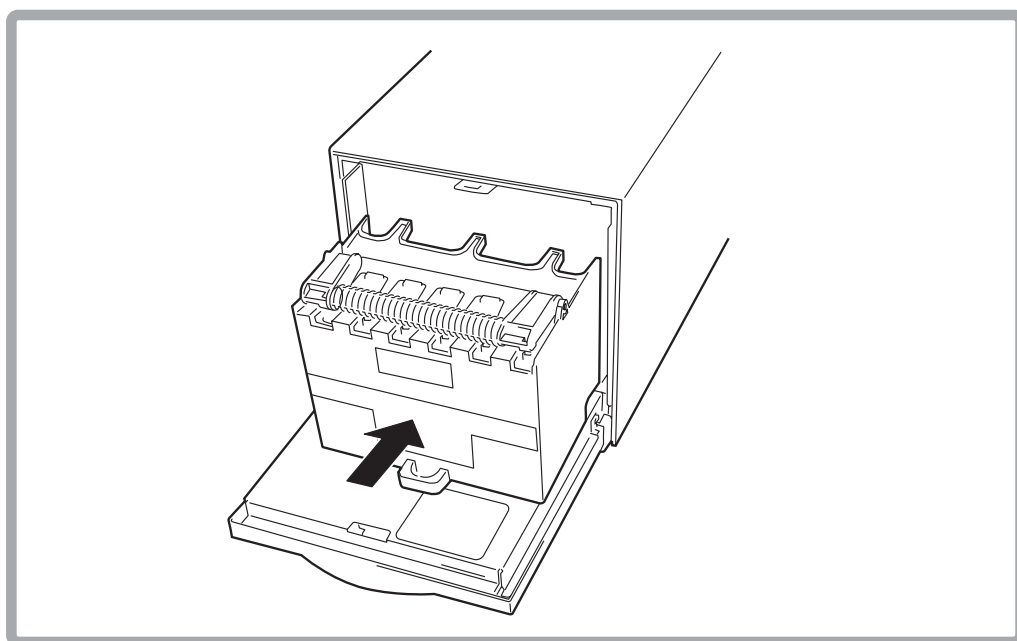
- 4 テープを取り出すには、テープの上と下の角を持ち、マガジンからまっすぐテープを引き出します。

テープの取り出し中はマガジンの取っ手を押さえないでください。取っ手を押すと、テープが所定の位置にロックされてしまいます。

- 5 書き込み保護スイッチが正面を向いており、マガジンの底部になっていることを確認して、テープをマガジンに挿入します。カチッと音がして所定の位置に収まるまで、テープをスロットに押し込みます (24ページの図を参照)。

- 6 マガジンタブを使用してマガジンをオートローダに挿入し、ドアを閉じます。

ドアの上に置いて、手前より滑らすようにして挿入すると簡単に入ります。



オートローダがインベントリ チェックを実行します。

テープがスロット内に正しく収まっていない場合は、カチッと音がして所定の位置に収まるまで、もう一度テープを押してください。

内部背面スロットのテープの取り出し/挿入

オートローダの損傷を防止するため、内部トランスポートを手で動かすことは避けてください。

- 1 前ページの手順に従って、ドアを開けて正面マガジンを取り出します。

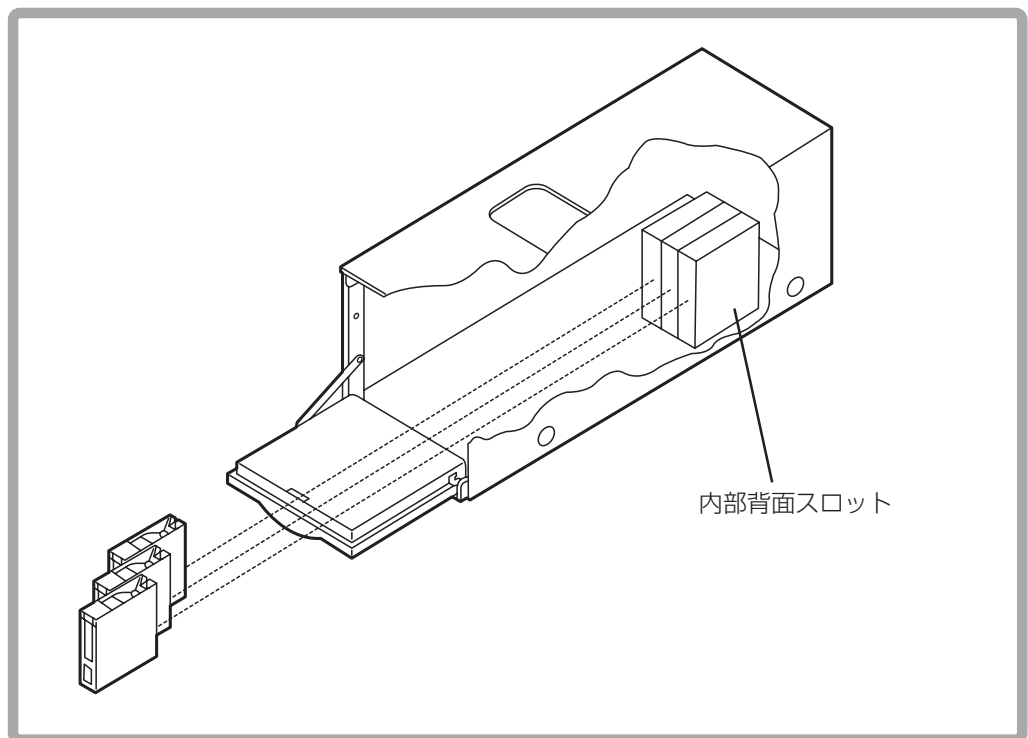
初めてテープを挿入する場合は、テープの挿入前に、オートローダの電源を切って再度入れたことを確認してください。電源を切って再度入れると、トランスポートが背面スロットから遠ざかります。

- 2 カチッと音がして外れるまでテープを押して、内部スロットからテープを取り出します。

テープの一部が出たらテープを取り出します。

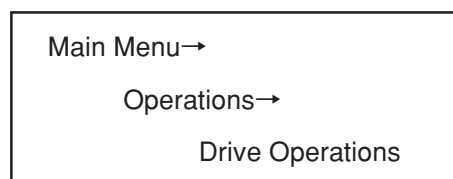
カチッと音がするまで背面テープを押してから、テープを取り出してください。そのまま引っ張って背面テープを取り出さないでください。

- 3 書き込み保護スイッチがオートローダの正面の底部にある状態で、カチッと音がして所定の位置に収まるまでテープを押して内部スロットに挿入します。



スロット番号は装置正面から見て、マガジンの右側からスロット1、スロット2、スロット3、スロット4、スロット5、スロット6。内部背面スロットの左側からスロット7、スロット8、スロット9となっています。

ドライブの操作とテープの取り扱い



ドライブへのテープの挿入

- 1 [Drive Operations]メニューで[Load Tape to Drive]を選択します。
- 2 [-]、または[+]キーを使用して、テープが入っているスロットを選択し、[OK]を押します。
- 3 [Load]を選択して、テープをスロットからドライブに移動します。
テープが挿入されていることが状態画面に表示されます。

[Home] 画面と27 ページにスロット番号の順番が示されています。

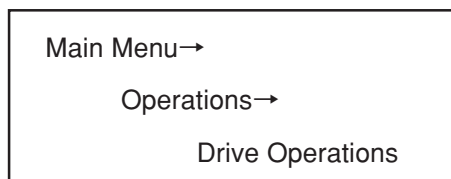
ドライブからのテープの取り出し

- 1 [Drive Operations]メニューで[Unload Tape from Drive]を選択して、テープをドライブからドライブに挿入される前に入っていた場所に移動します。

スロットにテープが入っている場合は、別のスロット場所を選択するようにメッセージが表示されます。

取り出される前にテープは自動的に巻き戻されます。テープが移動される間オートローダの進行状態が状態画面に表示されます。
- 2 [Drive Operations]メニューで[Menu]を選択して、[Operations]メニューに戻ります。

ドライブのクリーニング



ドライブ用のクリーニングカートリッジを使用してください。ドライブのクリーニングアイコンが表示されたときのみ、ドライブをクリーニングしてください。クリーニング用カートリッジを過剰に使用すると、ドライブヘッドが損傷しやすくなります。クリーニングに関する詳細については、52ページの「一部利用可能な状況」を参照してください。

- 1 空きスロットにクリーニングカートリッジを挿入し、場所をメモします。詳細については、25ページの「オートローダ内のテープの取り出し」を参照してください。
- 2 [Drive Operations]メニューで[Clean Drive]を選択します。
- 3 [Choose Cleaning Slot]で[-]、または[+]キーを使用して、クリーニングテープの入ったスロットの場所を選択します。スロット番号のリストについては、27ページ、または[Home]画面を参照してください。
- 4 [OK]を選択します。
- 5 クリーニング過程が完了したら、クリーニングテープは元のスロット位置に戻ります。状態についての情報が画面に表示されます。

傷んだテープ

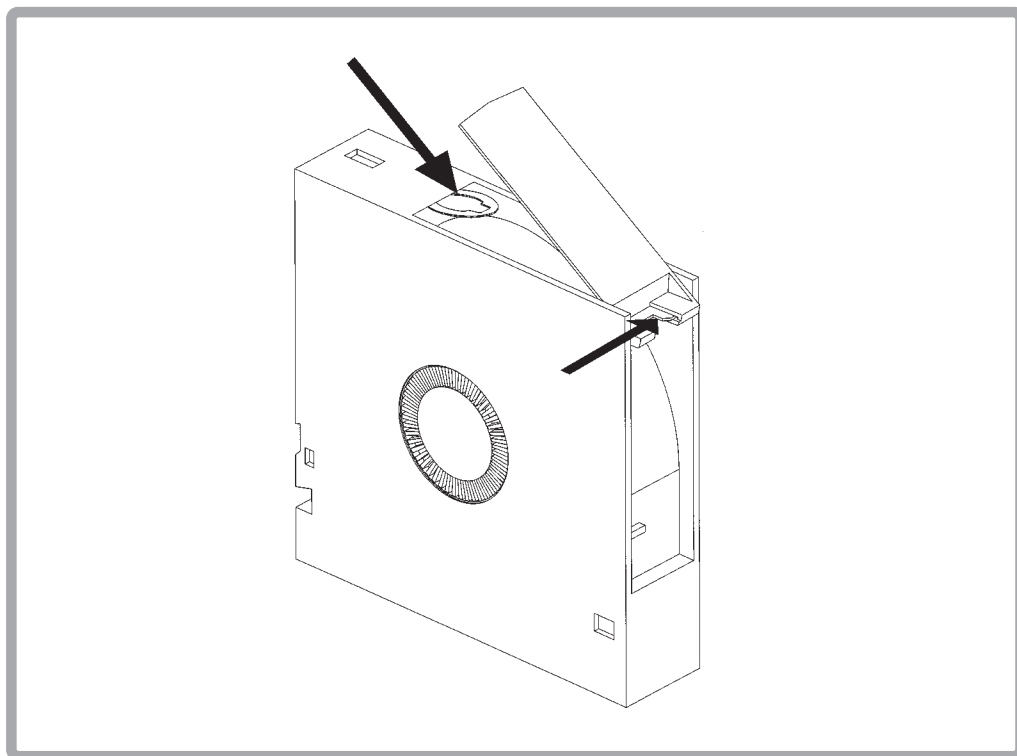
ドライブが繰り返し動作に失敗する場合は、テープが傷んでいる可能性があります。テープを落としたり、傷つけたり、修理の必要のあるドライブで使用した場合、テープを検査する必要があります。テープが傷んでいるかどうかを調べるには：

- ・ テープリーダーが折れたり、外れたり、ずれていないか調べます。
- ・ テープを振ってみて、中の部品が音を立てないか調べます。
- ・ リーダーバックループが正しい位置にあるか確認します(下図を参照)。
- ・ リーダーが傷んでいないか、切り取られていないか調べます。

リーダーの位置を調べるには：

- 1 ドアロックを押し込んで、テープドアをリリースします。ドアロックは、書込み禁止スイッチの反対側にあります。
- 2 ドアロックを抑えながら、ドアロックタブを押してドアを開けます。ドアが開いたら、テープに触れないように注意してください。

正しい位置にあるリーダーとドアロックタブ



データのセーブについて

ここでは、万一の場合に備えてのデータのバックアップ方法について説明します。バックアップの方法については、各バックアップソフトの取扱説明書を参照してください。

正副2巻にバックアップ

重要なデータまたはプログラムなどをセーブする場合には、正副2巻にバックアップすることをお勧めします。

また、保存する際には、バックアップソフトのベリファイ機能を利用し、保存したデータの確認も行うことをお勧めします。ベリファイ機能の利用方法については、各バックアップソフトの取扱説明書を参照してください。

こうしておけば、一方のテープがゴミまたは塵埃などによってリードエラーを起こしても、もう一方のテープから復旧でき大切なデータやプログラムの消失を防げます。

データの3世代管理について

ディスク上のデータをバックアップする場合、バックアップされたデータの3世代管理をお勧めします。

これはテープを3巻(A、B、C)使用して、1日目はテープAにディスク上のデータをバックアップしたならば、2日目にはテープBにバックアップし、3日目にはテープCにバックアップし、A→B→Cと順番にテープ上にディスク上のデータをバックアップしていくものです。

こうしておけば、一巻のテープCがリードエラーを起こしたとしてもテープBのデータを使用すればデータは復旧できます。また、テープBがリードエラーを起こしたとしてもテープAのデータを使用することで大切なデータは復旧できます。

～×モ欄～

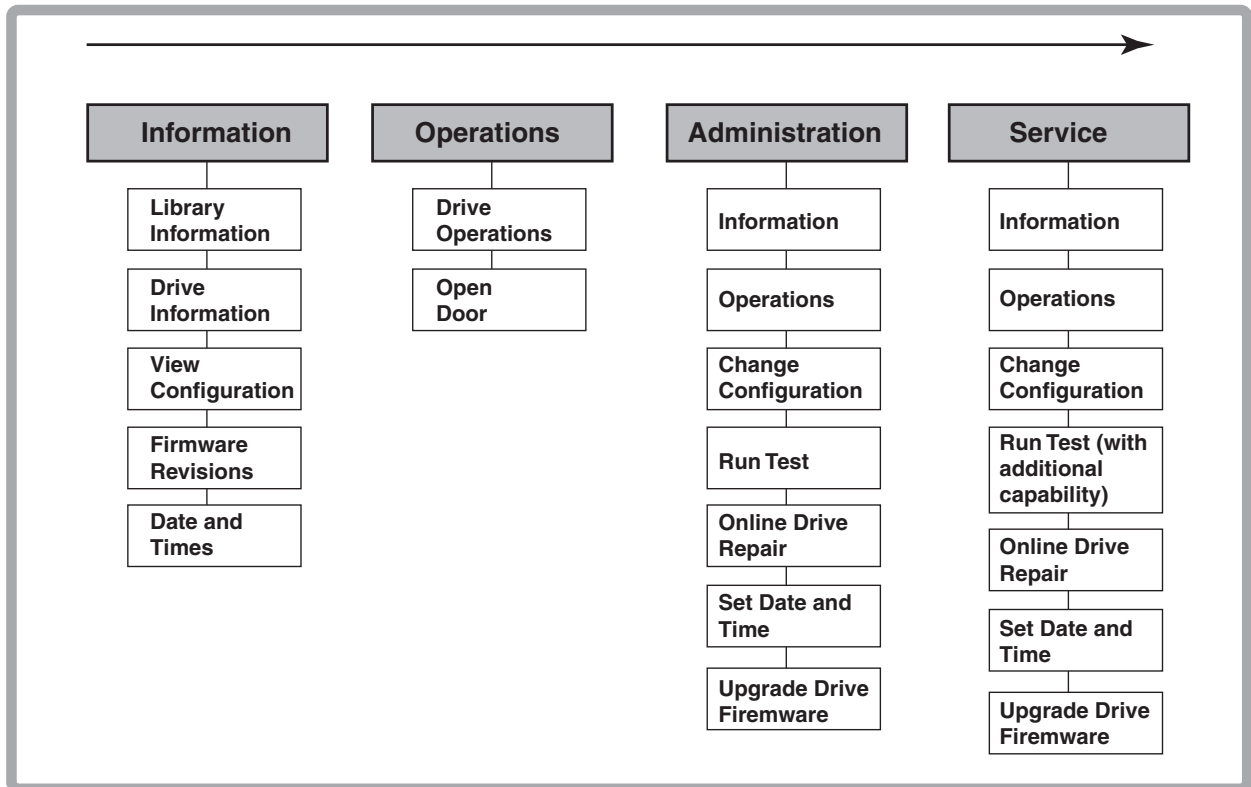
第3章 オペレータパネルの操作

フロントパネルは、オートローダをコントロールするためのものです。このLCDディスプレイの一番上に最大5行からなるステータス行があり、一番下にソフトキーがあります。5つのソフトキーの機能は、画面に応じて異なります。

ネスティング

パスワード保護されたメニューの各レベル(AdministrationおよびService)は、サブメニューで使用可能なすべてのオプションを含んでいます。たとえば、Administration Menuで使用可能なすべてのオプションは、Service Menuに含まれています。したがって、いちいちMain Menuに戻ったり、パスワードを再入力する手間が省けます。

ネスティング



ユーザーが何も操作を行わないと、フロントパネルは約3分後にホームスクリーンに戻ります。

フロントパネルディスプレイの規約

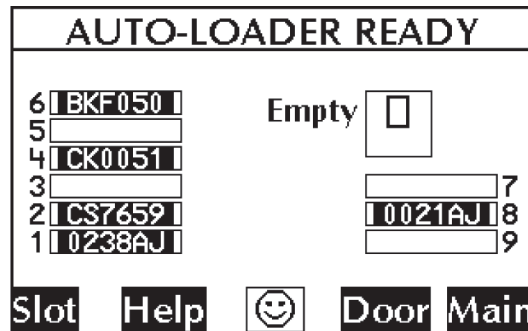
フロントパネルは、オートローダ、ドライブ、テープのステータス情報を示すためのアイコンとテキストを表示します。さらに、テキストプロンプトと警告によって、お客様が変更を加えているときの援助もします。

ソフトキーのラベルは、スクリーンによって異なります。希望の機能を実行させるには、そのラベルの真下のキーを使ってください。

フロントパネルステータス情報(ホームスクリーン)

下図は、本装置の典型的なホームスクリーンの表示を示します。

ホームスクリーン



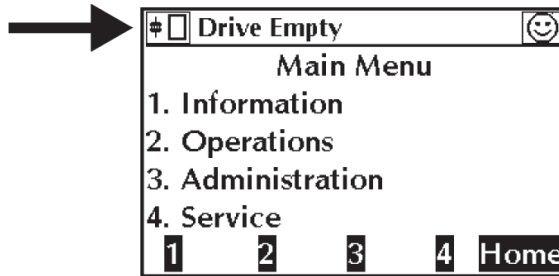
ホームスクリーンは以下を表示します。

- ・ オートローダの全般的な状態を示す文
- ・ ドライブとテープの状態
- ・ テープのバーコード(該当する場合)
- ・ [Slot]はスロット状態、バーコード情報、テープの場所を示す
- ・ [Help]は説明付きのアイコンを表示する
- ・ ☺・■・▽：オートローダの状態をアイコンで表示(アイコンの意味については次ページの「オートローダのアイコン」を参照してください。)
- ・ [Door]はドアを開く
- ・ [Main]で[Information]、[Operations]、[Administration]のメニューを表示する

アイコン

オートローダとドライブの状態を示すための以下のアイコンが、ステータスバーに表示されます。ステータスバーはホームスクリーンにはありません。

[Main Menu]画面の状態バー



ドライブのアイコン

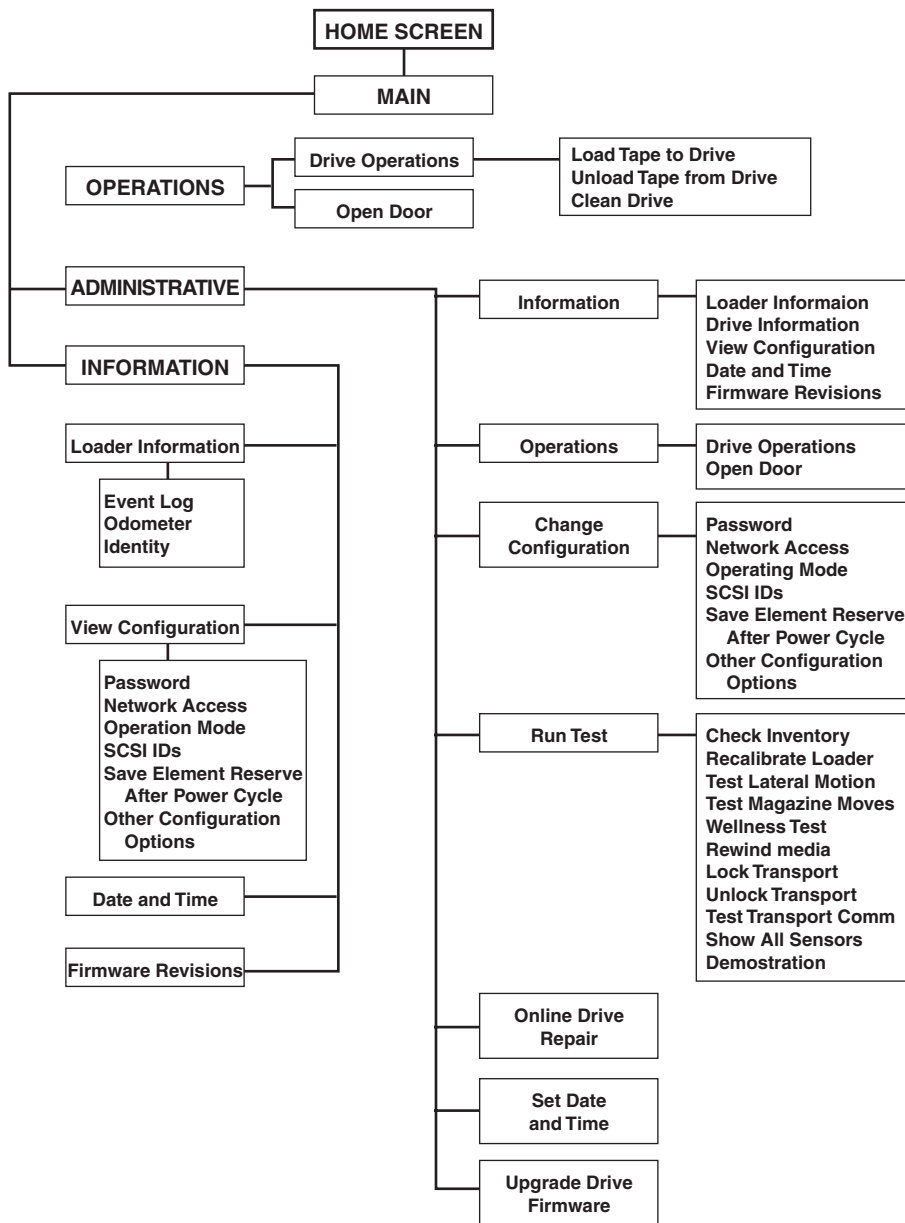
	電源オフ		オンライン
	失敗、オフライン		いっぱい（テープあり）、アイドル
	クリーニングの必要あり		テープをアンロード中
	オフライン		テープ上のデータを検索中
	失敗、オンライン		データをテープに書込み中
	テープがドライブをクリーニング中		テープ巻戻し中
	テープは書込み禁止		テープの読取り中
	空		テープを消去中
	テープをロード中		

オートローダのアイコン

	オートローダ-不良		オートローダ-一部使用可能
	オートローダ-良好		

- a. オートローダステータス-一部使用可能：オートローダは一部不良ですが、残りの機能は使えます。52ページの「一部使用可能な状態」を参照してください。

メニューツリー ~フロントパネルのメニュー構造~



オートローダの設定

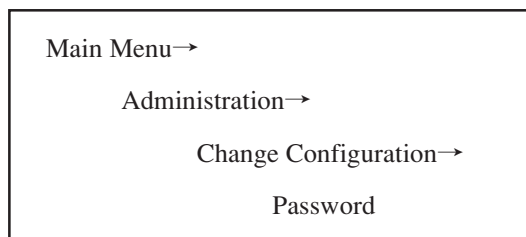
Main Menu→
Administration→
Change Configuration

次のようなオートローダのコンフィグレーションオプションを変更できます。

コンフィグレーションオプション

設定	説明	初期設定
Password	38ページの「パスワードの使用と変更」を参照。	オフ
Network Access	設定しないでください。	—
Operating Mode	次の操作モード(39ページの「操作モードの選択」を参照)から1つ選択できます。 ・自動通知 ・ランダム ・スタッカ	自動通知
SCSI IDs	40ページの「SCSI IDの設定」を参照。	コントローラ=0 ドライブ=1
Save Element Reserve After a Power Cycle	オートローダの電源を切って再度入れても要素(ドライブ、またはスロット)の予約を維持できます。	オフ
Other Configuration Options	・回復されたエラーの報告：SCSI上で回復されたエラーを報告します。 ・初期設定の復元：初期設定を復元します。 ・メディアの取り出し禁止：オートローダのドライブがロックされ、前面パネルでの操作ができなくなります。	オン なし オフ

パスワードの使用と変更



オートローダを最初に設置するときは、パスワードを使用しない設定になっています。

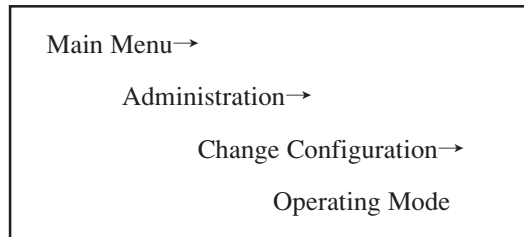
- 1 [Password]メニューを表示します。パスワードが使用可能になっているかどうか
状態画面に示されます。
 - ・ パスワードを使用しない設定になっている場合は、[Set new password]を選択して新しいパスワードを入力します。
 - ・ パスワードが使用可能になっている場合は、[Change password]を選択して、新しいパスワードを入力します。
 - ・ パスワードが使用可能になっている場合は、[Turn password Off]を選択して、パスワードを解除します。

パスワードの長さは必ず8桁にする必要があります。8桁を超えたものを入力すると、9桁目が新しいパスワードの1桁目になります。

- 2 [OK]を選択して変更を保存し終了するか、[Back]を選択して変更を保存せずに終了します。

パスワードは必ず書き留めておいてください。

操作モードの選択

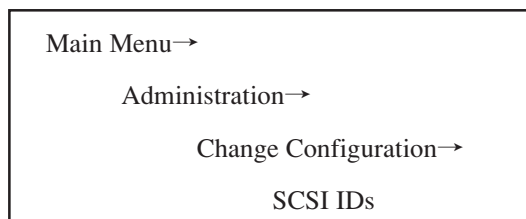


[Operating Mode]メニューを表示すると、現在選択中のモードが前面パネルに示されます。出荷時設定(Autodetect Mode)で使用してください。

- ・ Autodetect Mode [Autodetect](自動通知: 出荷時設定)モードでは、SCSI「チェンジャ」コマンドを受けるまで、オートローダは[Stacker]モードで開始されます。その後、randomモードで実行されます。「チェンジャ」コマンドには、次のものが含まれます。
 - － INITIALIZE ELEMENT STATUS
 - － READ ELEMENT STATUS
 - － POSITION TO ELEMENT
 - － MOVE MEDIA
 - － EXCHANGE MEDIA
- ・ この操作モードの場合、[Circular Mode On/Off]も選択する必要があります。[Circular]モードオプションがONの場合、オートローダは最後のテープカートリッジを取り出した後、最初のテープカートリッジを再度挿入します。[Circular]モードがOFFになっていて、最後のテープカートリッジが取り出されている場合は、お客様が追加のテープカートリッジを挿入するまでオートローダの動作は停止します。[Autodetect]モードの場合は[Autoload]を使用できません。
- ・ Stacker Mode: [Stacker]モードを使用すると、特別な自動化ソフトウェアを使用しないで、独立型のドライブのようにオートローダを使用できます。オートローダは、最後のテープを取り出すまで、ドライブからの取り出しとドライブへの挿入を自動的に実行します。この操作モードを使用する場合、次のモードを選択する必要があります。
 - － Circular Mode On/Off: [Circular]モードオプションを選択した場合、オートローダは、最後のテープカートリッジを取り出した後、最初のテープカートリッジを再度挿入します。[Circular]モードが使用禁止になっていて、最後のテープカートリッジが取り出されている場合、お客様が追加のテープカートリッジを挿入するまで、オートローダの動作は停止します。
 - － Autoload On/Off: [Autoload]オプションを選択すると、電源ON時に最初の利用可能なテープがドライブに挿入されます。ホストがドライブにSCSI Unloadコマンドを出すと、オートローダはドライブからテープカートリッジを取り出し、次に利用可能なテープを自動的に挿入します。

このサイクル中にオートローダがクリーニングカートリッジをロードすると、カートリッジは通常どおりにドライブに挿入され、クリーニングサイクル後に自動的に取り出されます。
 - － Random Mode: [Random]モードを使用すると、ホストコンピュータ内の特別な自動化ソフトウェアを使用してオートローダの完全な機能を使用できます。テープは前面パネルからの操作、またはホストSCSIコマンドによってのみドライブに挿入できます。[Stacker]モードのようにテープが自動的に挿入されることはありません。

SCSI IDの設定



同じ SCSI バス上にあるすべてのデバイスには、固有の SCSI ID が必要です。

デバイス	SCSI IDの初期設定値
オートローダコントローラ	0
ドライブ	1

- 1 [SCSI IDs]メニューを表示します。同じ SCSI IDを持つデバイスを異なった SCSI バスに接続するよう、警告メッセージが表示されます。[OK]を選択します。
- 2 [Configure SCSI ID]画面に選択したデバイスを示すメッセージが表示されます。[-]、または[+]キーを使用して、ドライブまたはオートローダコントローラを選択し、[OK]を選択します。
- 3 次の画面に現在の SCSI IDが表示されます。[-]、または[+]キーを使用して、SCSI IDを選択します。[OK]を選択すると変更を保存して終了します。[Quit]を選択すると変更を保存しないで終了します。
- 4 割り当てに成功または失敗したかどうかを確認画面に表示されます。SCSI IDの割り当てに失敗した場合、その理由が画面に表示され、[Configure SCSI ID]画面に戻ります。

日付と時刻の設定

Main Menu→

Administration→

Set Date and Time

オートローダを初めてセットアップした場合や約8日間電源のプラグを抜いていた場合は、日付と時間を設定する必要があります。日付と時間を設定していないと、エラーログに日付と時間のスタンプが含まれません。日付と時間を設定するには、[Administration]メニューを表示します。日付と時間のみを表示する場合は、[Information]メニューを表示します。

日付と時刻を設定するには：

- 1 [Set Date and Time]メニューを表示します。
- 2 [-]、または[+]キーを使用して、年、月、日を選択します。選択後、[->]キーを使用して、次の項目に移動します。
- 3 [+]、または[-]キーを使用して時と分(00:00:00)を設定します。[->]キーを使用して次の選択肢にスクロールします。秒は自動的に「00」に設定されます。
- 4 [-]または[+]キーを使用して、該当するタイムゾーンに合わせます(次ページの表を参照)。「UTC」はCoordinated Universal Time(協定世界時)を意味します。
- 5 [OK]を押して変更を保存します。または、[Quit]を押して、変更を保存せずにこのメニューを終了します。

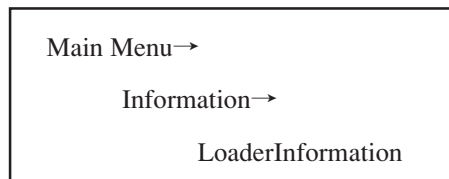
UTC -12	エニウエトク、クエジエリン
UTC -11	ミッドウェー諸島、サモア
UTC -10	ハワイ
UTC -9	アラスカ
UTC -8	太平洋時間(米国とカナダ)ティファナ
UTC -7	山地時間(米国とカナダ)アリゾナ
UTC -6	中部時間(米国とカナダ)サスカチュワン、メキシコシティー、テグシガルパ
UTC -5	東部時間(米国とカナダ)ボゴタ、リマ
UTC -4	大西洋時間(カナダ)カラス、ラパス
UTC -3	ブラジリア、ブエノスアイレス、ジョージタウン
UTC -2	中央大西洋
UTC -1	大西洋
UTC	大ブリテン島、リスボン、モンロビア、カサブランカ
UTC +1	ベルリン、ストックホルム、ローマ、ベルン、ブリュセル、ウィーン、パリ、マドリッド、アムステルダム、プラハ、ワルシャワ、ブタペスト
UTC +2	アテネ、ヘルシンキ、イスタンブール、カイロ、東欧、ハラレ、プレトリア、イスラエル
UTC +3	バクダッド、クウェート、ナイロビ、リヤド、モスクワ、サンクトペテルスブルグ、カザニ、ボルゴグラード
UTC +3:30	テヘラン
UTC +4	アブダビ、マスカット、トビリシ
UTC +4:30	カブール
UTC +5	イスラマバード、カラチ、エカテリンブルグ、タシケント
UTC +5:30	ボンベイ、カルカッタ、マドラス、ニューデリー、コロンボ
UTC +6	アルマトイ、ダッカ
UTC +7	バンコク、ジャカルタ、ハノイ
UTC +8	北京、重慶、ウルムチ、香港、パース、シンガポール、台北
UTC +9	東京、大阪、札幌、ソウル、ヤクーツク
UTC +9:30	アデレード、ダーウィン
UTC +10	ブリスベン、メルボルン、シドニー、グアム、ポートモレスビー、ウラジオストック、ホバート
UTC +11	マガダン、ソロモン諸島、ニューカレドニア
UTC +12	フィジー、カムチャツカ、マーシャル諸島、オークランド、ウェリントン

オートローダに関する情報の取得

以下の情報が、InformationおよびAdministrationメニューから得られます。

- ・ オートローダ情報
- ・ ドライブ情報
- ・ 設定情報
- ・ 日付と時刻
- ・ ファームウェアリビジョン

オートローダ情報



次の手順に従って、オートローダに関する情報を表示させます。下表にそれぞれのオプションを説明します。

1 [LoaderInformation]メニューから、次のオプションのいずれかを選択します。

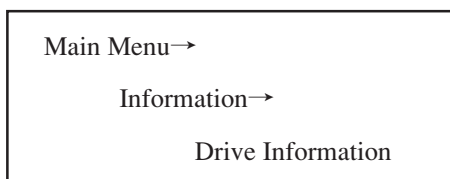
- ・ LoaderStatus
- ・ Hard Error Log
- ・ Recovered (Soft) Error Log
- ・ Odometer
- ・ Identity

2 [Back]を選択して、[LoaderInformation]メニューに戻ります。

オートローダ情報

メニューオプション	情報
Loader Status (詳細については52ページを参照)	オートローダの状態と一部利用可能に関するフラグを表示します。
Hard Error Log (54ページの「エラー状態を解決する」を参照)	回復不能のエラー履歴を表示します。ハードエラーがないことを示すメッセージを返したり、エラー項目を示します。[Older]、または[Newer]のキーを使用して、項目を選択します。
Recovered (Soft) Error Log (51ページの「エラー状態を解決する」を参照)	回復可能のエラー履歴を表示します。ソフトエラー項目がないことを示すメッセージを返したり、エラー項目を示します。[Older]、または[Newer]のキーを使用して、項目を選択します。
Odometer	テープを移動した回数を表示します。
Identity	オートローダのシリアル番号を表示します。

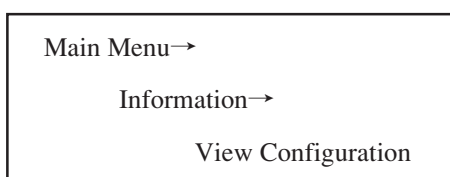
ドライブ情報



次のオプションのいずれかを選択します。

- ・ Event Log : ドライブエラー、オンライン/オフライン偏移、ドライブのクリーニングを含むドライブについての重要なイベントを表示します。このログはドライブを取り除いた後でも利用できます。
- ・ Odometer : 累積的な電源投入時間数、ドライブへのテープ挿入回数、電源投入サイクルを表示します。
- ・ Identity : ドライブタイプ、シリアル番号、ファームウェアリビジョンを表示します。

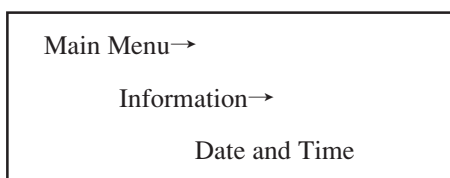
設定情報



[View Configuration]メニューで次の事項に関する現在の情報を表示できます。

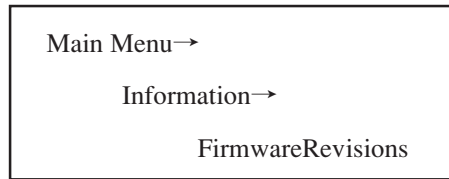
- ・ パスワード設定状態
- ・ 操作モード
- ・ SCSI IDの割り当て
- ・ 要素
- ・ その他の設定オプション(メディアアクセス防止、初期設定値の回復、回復されたエラーログの報告、サービス専用の診断設定)

日付と時刻



このメニューを開いて、日付、時間、およびタイムゾーンについてのオートローダの設定を表示します。[Powered]キーを使用して、最後に電源を投入した日付と時間を表示します。

ファームウェアリビジョン



[FirmwareRevisions]メニューで次の事項に関する情報を表示できます。

- ・ オートローダ
- ・ テープドライブ

オートローダ用診断テストの実行

Main Menu→
Administration→
Run Test

次の手順に従ってオートローダ機能の内部テストを実行してください。
次ページの表にこれらのテストについて説明します。

- 1 [Administration]で[More]を選択して、追加の管理オプションを表示します。
- 2 [Run Test]メニューを選択します。
- 3 [Run Test]で[-]、または[+]キーを使用して、実行可能なテストを表示します。
- 4 [OK]を選択してテストを選択します。
- 5 このテストの実行回数を選択します(複数サイクルが実行可能でそれを希望する場合)。
- 6 [Run]を選択して、テストサイクルを開始します。テストサイクルの最後にテスト結果が表示されます。

[Stop]を選択すると、実行中のテストが中止されます。現在のテストサイクルが完了し、テストが停止します。テストが停止するまで数分かかることがあります。

前面パネルの診断テスト

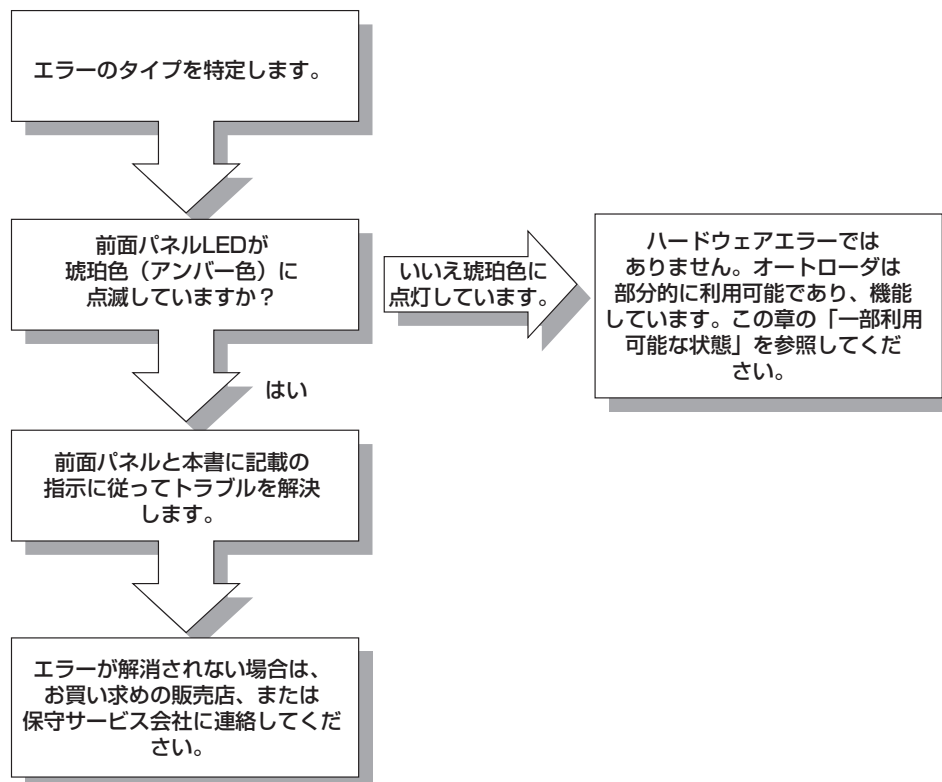
テスト	説明
Check Inventory	オートローダ全体を物理的に走査して、テープの場所、状態、およびバーコード情報を判定します。
Recalibrate Loader	電源投入時のセルフテストを実行します。テストループ毎に1回テストが実行されます。このテストは機械を調整なおしてハードエラーを解消しますが、ハードエラーログはクリアされません。
Test Lateral Motion	トランスポートアセンブリを無作為のスロットに移動します。テープは必要ありません。
Test Magazine Moves	テープを無作為のスロットから空の無作為のスロットに移動し、テープを元の位置に戻します。
Wellness Test	テープを無作為のスロットから空の無作為のドライブに移動し、テープを元の位置に戻します。
Rewind Media	注意:ホストからデータを受信中のテープがドライブに入っている場合は、このテストは実行しないでください。 ドライブ内のテープを巻き戻します。
Lock Transport	トランスポートアセンブリを所定の位置にロックして、オートローダの輸送を可能にします。 <i>注記:オートローダの電源を入れると、トランスポートアセンブリのロックが自動的に解除されます。</i>
Unlock Transport	オートローダの電源を切って再度入れずにトランスポートのロックを解除する場合、トランスポートアセンブリのロックを解除します。このテストを使用するには、トランスポートがロックされている必要があります。
Test Transport Comm	オートローダコントローラとトランスポートマイクロコントローラ間の内部赤外線通信パスをテストします。このリンクの健全性を報告します。テストが成功した場合は、赤外線通信リンクは良好です。
Show All Sensors	ドアセンサの状態を動的に表示します。ドアセンサを切り換えるために、ドアを開け閉めします。
Demonstration	注意:テープの順序が異なっているため、このテストの実行後は、ホストバックアップ用アプリケーションからインベントリチェックを実行してください。 無作為でテープの入った収納スロットを選択し、そのテープをドライブに移動します。テストは、テープの入ったスロット、テープの入ったドライブ、空のスロットの位置を確認し、交換を行います。

テスト	説明
サービス担当者が実行可能なその他のテスト	
Empty Drive	ドライブからテープを取り出し、元の場所に戻します。
Fill Transport	<p>注意:このテストの実行後は、バックアップソフトからインベントリチェックを実行してください。</p> <p>テープを無作為の収納スロットからトランスポートに移動します。</p>
Empty Transport	<p>注意:このテストの実行後は、バックアップソフトからインベントリチェックを実行してください。</p> <p>トランスポートのテープを元のスロットに移動したり、元のスロットにテープが入っている場合は別のスロットに移動します。トランスポートからのテープ取り出しが完了したら、テストは成功です。</p>
Clear Soft Log	ソフトエラー(回復可能なエラー)ログから履歴データをすべて消去します。
Clear Hard Log	ハードエラー(回復不能のエラー)ログから履歴データをすべて消去します。このテストは前面パネルの「Hard Error」インジケータをすべてクリアします。
Find Plunge Home	トランスポートプランジ機構をトランスポートアセンブリの後部に移動します。
Find Lateral Home	トランスポートをオートローダの最前右側に移動し、スロット2の位置を確認します。
Test Lateral Encoder	トランスポートをオートローダの最前右側から最後部右側に移動して、その距離をチェックし、機械が動いているかどうかを確認します。

第4章 障害処理ガイド

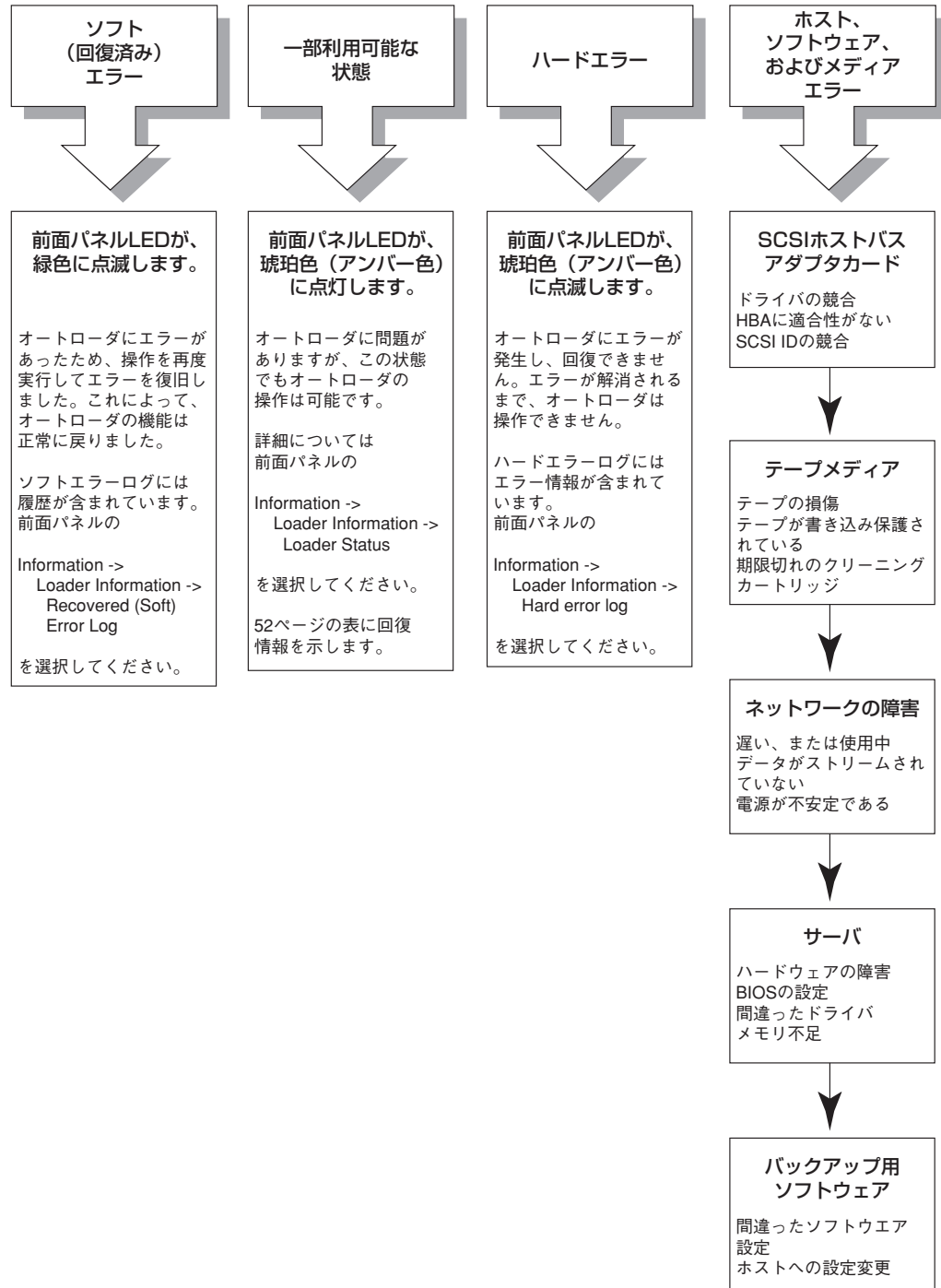
トラブルシューティングの概要

エラーが発生したときは、以下の手順に従って問題を解決します。



エラーの種類

オートローダの使用中に発生するエラーには、何種類かあります。エラーごとのトラブルシューティングについては、この章の後半で説明します。



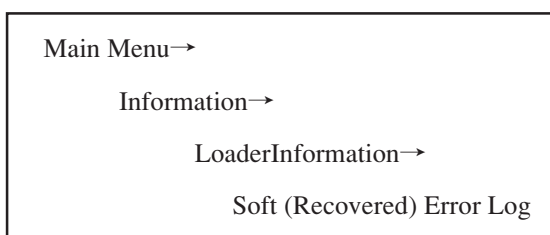
エラーの状態

ここでは、次のエラーの違いについて説明します。

- ・ ソフト(回復した)エラー
- ・ 一部利用可能(52ページ)
- ・ ハード(回復不可能な)エラー(54ページ)
- ・ ホストソフトウェアのエラーとメディアのエラー(56ページ)

ソフト(回復した)エラー

「ソフトエラー」とは、操作の再試行によって回復したハードウェアエラーのことです。ソフトエラーの多くはお客様にはわかりませんが、ソフトエラーログには記録されます。

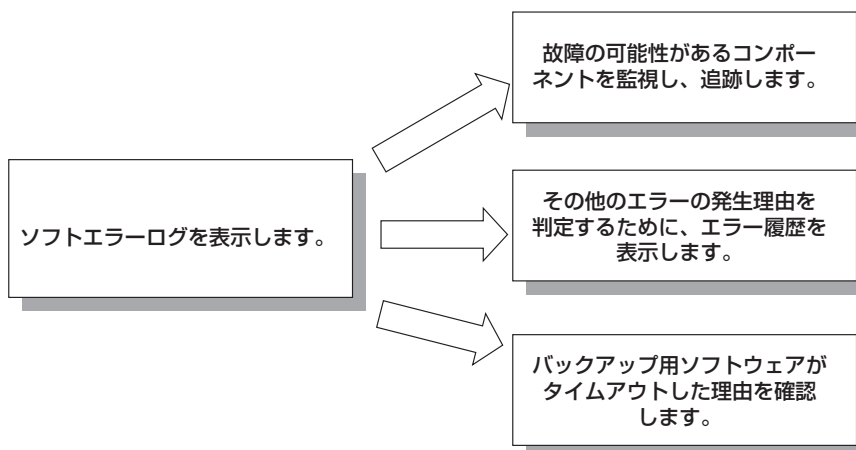


エラーが大きな問題になる前にソフトエラーログを調べて、エラーの監視と追跡を行います。コンポーネントでソフトエラーが数多く発生する場合は、オートローダコンポーネントに障害が発生している可能性があります。

オートローダにハードエラー(54ページ)が発生し、その原因がわからない場合は、ソフトエラーログを調べることによって、問題箇所を見つけることができます。

ソフトエラーを利用して、バックアップ用ソフトウェアのタイムアウトの原因を突き止めることもできます。操作のたびにホストコンピュータのバックアップ用ソフトウェアが動作するのは、指定された時間のみです。指定された時間を経過してもバックアップ用ソフトウェアでオートローダが動作している場合は、失敗した操作をオートローダが再試行しようとしている可能性があります。

日付とタイムスタンプは、エラーの発見に役立ちます。

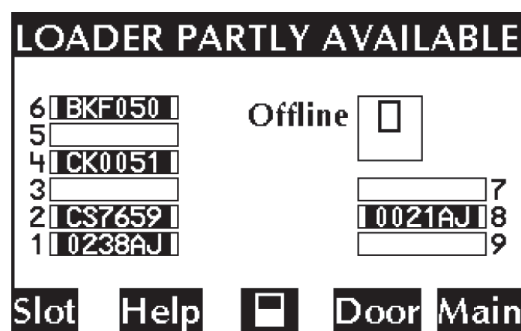


一部利用可能な状態

一部利用可能な状態のオートローダは機能しますが、注意が必要です(次ページ以降の表を参照)。一部利用可能な状態は、ハードウェアエラーではありません。

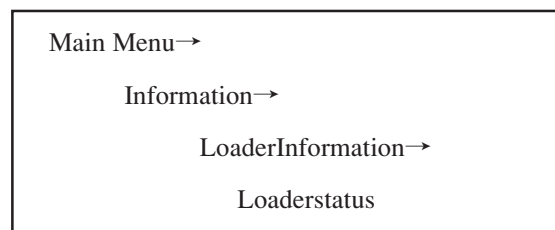
一部利用可能な状態の場合、問題が解決されるまでディスプレイの下のLEDは琥珀色(アンバー色)に点灯しています。

一部利用可能状態の初期設定ホーム画面は、次の例のとおりです。



ホーム画面の真ん中のアイコンボタンは、[Loader Status]メニューと、一部利用可能に関する情報へのショートカットです。

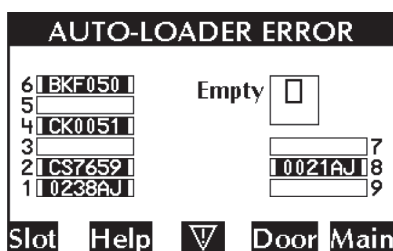
一部利用可能エラーの詳細な情報を表示するには、このメニューを使用してログにアクセスします。



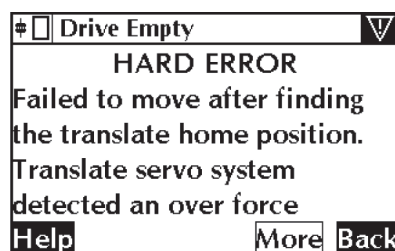
エラーメッセージ	原因	回復方法
Drive not present	オートローダがドライブモジュールを検出できません。	ドライブが正しく取り付けられ、オンラインになっているかどうかを確認します。
Drive offline	次の理由により、ドライブがオフラインになっています。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前面パネルからオフラインになっている。 ・ ホスト コンピュータからオフラインになっている。 ・ パワーオンテストに失敗した。 ・ オートローダへのシリアル通信に障害が発生した。 ・ テープのロード/アンロードに失敗した。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. オートローダの電源を切り、すぐに電源を入れます。 2. ドライブが正しく取り付けられ、オンラインになっているかどうかを確認します。 3. 前面パネルからドライブをオンラインに戻します。 4. 前面パネルからエラー ログをチェックします。
Drive online pending	ドライブに電源が入っていても、ファームウェアが古くなっています。	お買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。
Drive needs cleaning	ドライブのクリーニングが必要です。	ドライブをクリーニングします (29ページ)。
Drive critical error	ドライブで重大なエラーが発生しました。	ドライブのエラーログをチェックします (43ページ)。
Firmware update needed	オートローダ コンポーネントのファームウェアに、オートローダの各部との互換性がありません。	お買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。
Fan failure	ファンにエラーが発生しました。	オートローダの電源を切り、すぐに電源を入れます。
Magazine missing	オートローダがマガジンを検出できませんでした。	マガジンが正しく取り付けられているかどうかを確認します。
Door open	前面のふたが開いています。	ふたを閉めます。
Front panel not present	オートローダが前面パネルディスプレイを検出できませんでした。	オートローダの電源を切り、すぐに電源を入れます。
Front panel failed	前面パネル ディスプレイがパワーアップテストに失敗しました。	オートローダの電源を切り、すぐに電源を入れます。

ハード(回復不可能な)エラー

ハードエラーが発生すると、前面パネルにはHard Errorと表示され、琥珀色(アンバー色)のLEDが点滅します。前面パネルには、下図のようにエラーに関する情報が自動的に表示されます。このエラーが解決されるまで、オートローダの操作はできません。

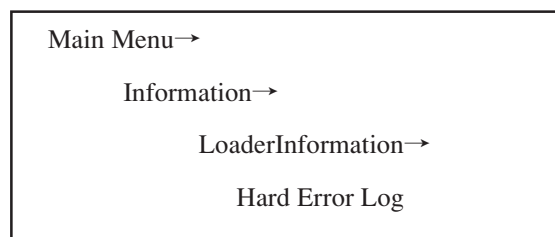


ホーム画面のハードエラー



ハードエラーのメッセージ例

ハードエラーログを表示して、エラーイベントの順序と、エラー状態の解決に関する詳しい情報を確認します。このログを表示するには、次の操作に従うか、真ん中のボタン(ショートカット)を押します。



- エラーログを調べる場合、エラーの履歴を表示するには[Older]を選択し、最新のエラーを表示するには[Newer]を選択します。
- 日付とタイムスタンプは、エラーの特定に役立ちます。

エラーに関する詳細については、次の手順に従います。

- 1 最初のエラーメッセージが表示された画面、または[Hard Error]画面から[More]を選択すると、次に示したエラーに関する情報を取得できます。
 - ・ エラーイベントのタイムスタンプ
 - ・ エラーコード番号
 - ・ 問題の原因と考えられるオートローダコンポーネント
 - ・ エラーコードの説明
 - ・ 回復方法
 - ・ エラーの種類に関する情報が得られるエラーコードの修飾子
 - ・ 出荷前での診断に使用されるシーケンス番号
- 2 この画面のすべての情報を記録し、後の参照用に使用します。

3 [More]を選択します。回復手段の一覧とこれに続く画面を記録します。

この作業の終了後に同じ情報を取得するには、ハードエラーログの最新のエントリーを表示します。

4 表示された順序で回復手段を実行します。問題を特定できるまで、それぞれの回復手段の実行を続けます。前面パネルに表示される回復手段は次のとおりです。

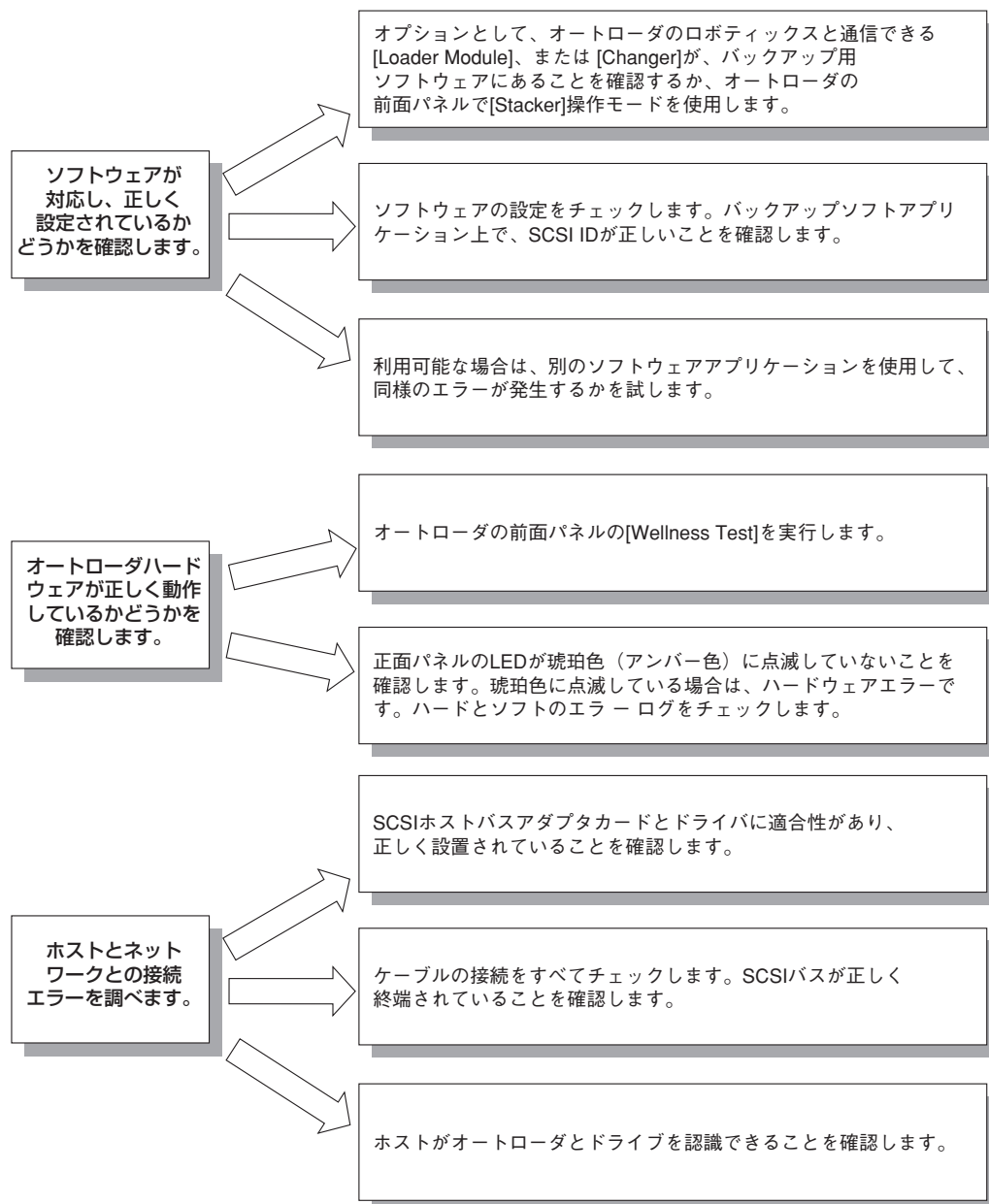
- ・ オートローダの電源を切り、すぐに電源を入れます。
- ・ ドライブからテープを取り出します。
- ・ オートローダまたはホストの設定をチェックします。
- ・ データケーブルまたは電源ケーブルの接続をチェックします。
- ・ 前面パネル診断テストを実行します。エラー状態を特定し、解決するために、診断テストの実行をお勧めします。
- ・ テープまたはマガジンを入れ直します。

5 前面パネルディスプレイに表示された回復手段をすべて実行しても問題が解決しない場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社にご連絡ください。

ホストソフトウェアのエラーとメディアのエラー

オートローダが正しく動作するには、ほかのいくつかのコンポーネントも確認する必要があります。オートローダが原因と思われるエラーのほとんどは、ホスト、ネットワーク、またはバックアップ用ソフトウェアのエラーが原因です。

オートローダのトラブルシューティングでは、ほかのコンポーネントを1つずつチェックします。エラーの原因がオートローダ、ハードウェア、ホスト、またはバックアップ用ソフトウェアにあるかどうかを判断するのに役立つトラブルシューティングの手順について説明します。



エラー情報の発見と識別

ここでは、次の概要を説明します。

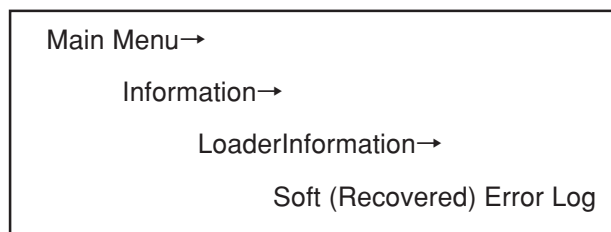
- ・ ログファイルへのアクセス
- ・ 状態を判断するためのLEDの使用 (58ページ)

エラーログファイルへのアクセス

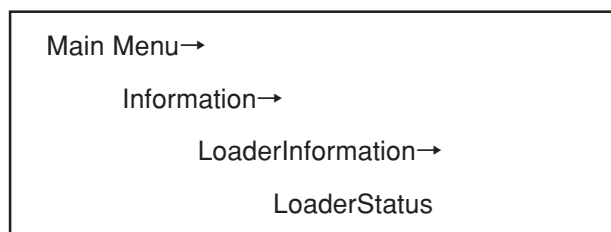
アクセスできるエラーログファイルは次のとおりです。

- ・ **ソフト(回復した)エラー:** 小さなエラーのログが記録されています。根本的な問題を示したり、重大なエラーに結びつくエラーの特定に役立ちます。51ページを参照してください。
- ・ **一部利用可能エラー:** 現在の状態では注意が必要ですが、オートローダを操作することは可能です。52ページを参照してください。
- ・ **ハード(回復不可能な)エラー:** 解決する必要がある重大なエラーのログが記録されています。54ページを参照してください。
- ・ **ドライブイベントログ:** ドライブのイベントとエラーに関するログが記録されています。

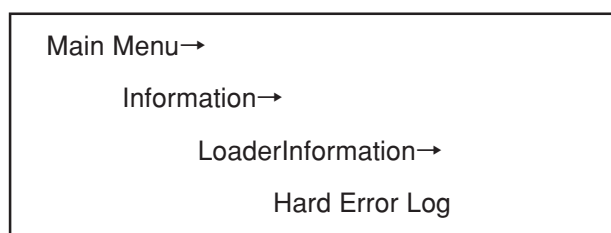
ソフト(回復した)エラーログ用のメニュー操作



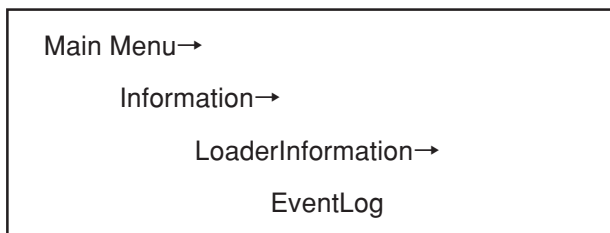
一部利用可能に関する情報用のメニュー操作



ハード(回復不可能な)エラーログ用のメニュー操作



ドライブイベントログ用のメニュー操作

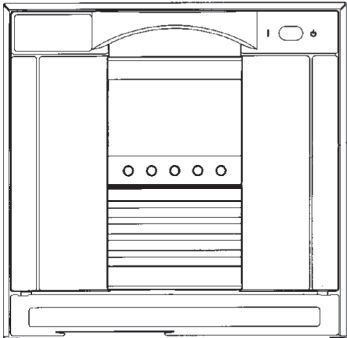


状態を判断するためのLEDの使用

LEDは発生する状態およびエラーを示します。次のLEDからオートローダの動作に関する詳細な情報を得ることができます。

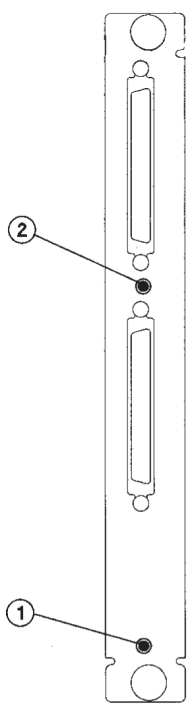
- ・ 前面パネル
- ・ HVDS (High Voltage Differential SCSI) コントローラカード
- ・ ドライブモジュール

前面パネルLED

色	説明	
緑色	オートローダの準備ができています。	
緑色に点滅	オートローダが、アクティブで機能しています。	
琥珀色（アンバー色）に点灯	オートローダは一部が利用可能です(完全には機能しませんが、使用できます)。	
琥珀色（アンバー色）に点滅	ハードエラーが発生しました。エラーを解決するまで、オートローダを操作できません。	

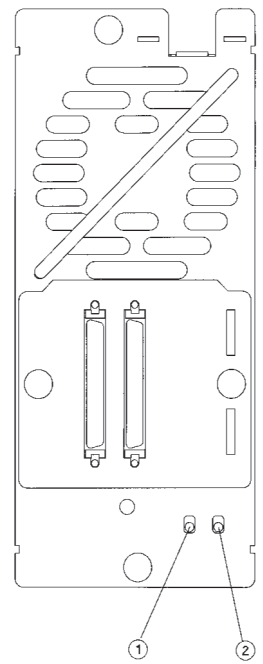
HVDSライブラリコントローラカードのLED

1) コントローラLED	
色	説明
緑色に点滅	コントローラにブートコードが必要です。
黄色	電源の投入中です。
黄色にn回点滅 休止 黄色にn回点滅	コントローラは、パワーオンテストに失敗しました。 n = 1; ROM エラー n = 3; マイクロプロセッサエラー n = 4; 制御 RAM エラー n = 5; 非揮発性 RAM エラー n = 6; 揮発性 RAM エラー
緑色	コントローラは、パワーオンテストに成功しました。
2) SCSI LED	
色	説明
黄色	SCSIバスの種類が正しくありません。片側型、低電圧SCSIデバイス、または低電圧用ターミネータが取り付けられています。



ドライブモジュールのLED

1) 黄	2) 緑	説明
オフ	オン	ドライブはオンラインで利用可能です。
点滅	オフ	ドライブはオフラインのため、オートローダの電源を切った場合と同じように交換が可能です。
オン	点滅	ドライブはオンラインに移行中です。
点滅	オン	ドライブはオフラインです。コントローラへの内部通信が失われました。
オン	オン	ドライブモジュールコントローラがリセットされました。
オン	オフ	パワーオンテストを実行中です。



一般的な問題のトラブルシューティング

次の表は、オートローダのトラブルシューティングの方法を示しています。ホストまたはアプリケーションソフトウェアに関連する問題については、ホストシステムやアプリケーションソフトウェアのマニュアルを参照してください。

電源の入切をする前に、システム管理者に問い合わせてください。アクティブなデバイスがSCSIバスに接続されている間は、電源を一度切ったら再度入れないようにしてください。SCSIバスがアクティブな状態でこのような操作をすると、データが消失したり、ホストシステムが停止します。

トラブルシューティングリスト(1/3)

原因	回復方法
電源	
オートローダに電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none">電源コードの接続をチェックします。電源スイッチがオンになっているかどうかを確認します。コンセントに電源が流れているかどうかを確認します。別の使用可能なコンセントで試します。電源コードを交換します。オートローダの背面のLEDが点灯し、ファンが回転しているかどうかを確認します。
パワーオンテストに失敗した。 前面パネルディスプレイにエラーメッセージが表示される。	<ul style="list-style-type: none">テープはいずれもマガジンに完全に挿入され、マガジンがオートローダの内部にしっかりと取り付けられているかどうかを確認します。内部梱包材が取り除かれているかどうかを確認します。ふたが閉じられているかどうかを確認します。
オートローダの電源投入の失敗時にドライブに挿入されていたテープが、電源の投入後も動作可能状態に戻らない。	<ul style="list-style-type: none">オートローダの背面のLEDが点灯し、ファンが回転しているかどうかを確認します。オートローダの電源を切り、すぐに電源を入れます。
メッセージがディスプレイに表示されない。	<ul style="list-style-type: none">アクティブなコンセントに電源コードが接続されているかどうかを確認します。電源スイッチがオンになっているかどうかを確認します。オートローダの背面のLEDが点灯し、ファンが回転しているかどうかを確認します。オートローダの電源を切り、すぐに電源を入れます。

トラブルシューティングリスト(2/3)

原因	回復方法
テープの動き	
マガジンの挿入またはテープのロード後にエラーメッセージが表示される。	<ul style="list-style-type: none"> ・ テープがマガジンに正しく挿入されているかどうかを確認します (25ページの「オートローダ内のテープの取り出し」を参照) ・ 使用するテープの種類が正しいかどうかを確認します。
テープがドライブにからまっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ オートローダの電源を切り、電源を入れた後、前面パネルからもう一度テープをアンロードします。 ・ バックアップソフトがスロットを予約していないかどうかを確認します。バックアップソフトのジョブを取り消す必要があります。
テープがトランスポートにからまっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Recalibrate Loader テストを実行します (46ページの「オートローダ用診断テストの実行」を参照) ・ お買い求めの販売店、または保守サービス会社にご連絡ください。
テープが背面収納スロットにからまっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前面パネル ディスプレイを使用して、ふたを開きます。ふたを下げ、マガジンを取り外します。 ・ カチッと音がするまでテープを背面スロットに差し込みます。カチッと音がして外れるまで再度テープを押し込みます。
トランスポートがテープのロード/アンロードをしない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Recalibrate Loader テストを実行します (46ページの「オートローダ用診断テストの実行」を参照) ・ お買い求めの販売店、または保守サービス会社にご連絡ください。
接続	
ホストがオートローダを検出しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ オートローダにターミネータが装着され、ケーブルが正しく取り付けられているかどうかを確認します。 ・ ターミネータとホストバスアダプタカードが、オートローダおよび SCSIバスの種類(HVDS)と互換性があるかどうかを確認します。 ・ オートローダがオペレーティングシステムで認識されているかどうかを確認します。 ・ SCSI ホストバスアダプタカードとバックアップ用ソフトウェアが、オートローダと互換性があるかどうかを確認します。
ホストのバックアップソフトウェアアプリケーションがオートローダを検出しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ バックアップ用ソフトウェアがドライブを検出してもオートローダを検出しない場合、オートローダ モジュール、またはチェンジャオプションがバックアップソフトに付属しているかどうかを確認します。ほとんどのソフトウェアパッケージには、オートローダロボティクスと通信するための追加モジュールが必要です。 ・ バックアップソフトがオートローダを検出してもドライブを検出しない場合、正しいバックアップソフトドライバがインストールされているかどうかを確認します。
変更したドライブのSCSI IDがホストコンピュータで認識されない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じバスにある SCSIデバイスに、それぞれ異なるID番号が割り当てられているかどうかを確認します。 ・ ホストを再起動します。 ・ 設定に関係なくドライブの SCSI IDが5のままの場合は、オートローダと通信できません。
オートローダへの接続後、応答速度が遅くなるか、または停止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホストに接続されているすべてのデバイスでSCSI IDの競合がないかどうかを確認します。 ・ バックアップソフトではSCSI IDを特定の順序にする必要はありません。

原因	回復方法
オートローダのパフォーマンス	
オートローダでのデータのバックアップの効率が悪い。	<ul style="list-style-type: none"> ・ オートローダドライブが専用のSCSIバスに接続されており、ほかのテープドライブまたはハードドライブとディジーチェーン接続されていないかどうかを確認します。
動作	
内部テストを中止する必要がある。	[STOP]を押します。現在のテストループが完了し、テストが終了します。現在のテストループが完了するまで少し時間がかかります。
テープに書き込みができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファイルシステムに対するホストデバイスのアクセス権限をチェックします。 ・ 使用しているテープの種類が正しいかどうかを確認します。 ・ テープの書き込み禁止タブをチェックして、書き込み可能状態になっているかどうかを確認します。 ・ ドライブのMedia Event Logをチェックします。 ・ 新しいテープに取り替えます。
クリーニング	
クリーニングメッセージが繰り返し表示される。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存のクリーニングテープを新しいテープと交換します。 ・ ドライブのクリーニング後も前面パネルディスプレイでメッセージが表示される場合は、クリーニングテープを交換します。
新しいテープを使用してもドライブクリーニングアイコンが表示される。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 29ページの「ドライブのクリーニング」の手順に従い、ドライブをクリーニングします。 ・ すぐにクリーニングアイコンが表示される場合は、データテープを交換します。
よく使用した古いテープをロードすると、ドライブクリーニングアイコンが表示される。	<ul style="list-style-type: none"> ・ テープカートリッジの外側をクリーニングします。 ・ 29ページの「ドライブのクリーニング」の手順に従い、ドライブをクリーニングします。
よく使用した古いテープをロードすると、クリーニング後すぐにクリーニングアイコンが再度表示される。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の手順に従ってテープが読み取り可能かどうかを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> － エラーメッセージをクリアします。 － テープをもう一度読み取ります。 ・ データテープの読み取りが可能な場合は、損傷したテープからデータのバックアップをとり、損傷したテープを廃棄します。 ・ クリーニングテープを交換します。

付録A 仕様

本装置

データ転送速度	最大20MB/秒(テープドライブ部：SCSIバス上)
最大データ記憶容量	40GB×9(圧縮時：80GB×9)
カートリッジテープ実装数	最大9巻
インタフェース	Wide differential SCSI
外形寸法 [N8160-29] [N8160-30*]	229mm(幅)×690mm(奥行き)×235mm(高さ) 219mm(幅)×690mm(奥行き)×219mm(高さ) * N8160-30 DLT集合型(ラックマウント用)はラックに搭載した際(N8560-31 DLT集合型ラックマウント搭載キット)、高さが264mmとなり、6U分のスペースが必要です。
質量	約23kg
データ転送速度	6MB/秒(最大、非圧縮時) 12MB/秒(最大、圧縮時)
電源電圧	AC100V
周波数	50/60Hz(共用)
消費電力	100W(Typ.)
環境条件[動作時]	周囲温度 10℃～35℃(温度変化率：10℃/時間) 相対湿度 20%～80%RH(湿度変化率：10%/時間) 最大湿球温度 26℃(結露しないこと)
[保管時]	周囲温度 -20℃～60℃(温度変化率：10℃/時間) 相対湿度 10%～90%RH(湿度変化率：10%/時間)

カートリッジテープ(型番：EF-2413G)

最大データ記憶容量	40GB(圧縮時80GB)
テープ長	約549m(1,800フィート)
使用条件	周囲温度 10℃～40℃ 相対湿度 20%～80%RH 最大湿球温度 25℃(結露しないこと)
保管条件	周囲温度 16℃～32℃ 相対湿度 20%～80%RH 最大湿球温度 26℃(結露しないこと) * カートリッジテープは、添付のプラスチック保護ケースに入れてふたをして保管してください。カートリッジテープは、水平、垂直どちらの方向に置いてかまいません。
放置時間	使用条件および保管条件以外の環境下に放置していたカートリッジテープを使用する場合には、使用する前に、24時間を超えない範囲で放置していた時間以上に使用する環境下において、なじませてください。(この時の温度勾配は11℃/時間以下と規定します。)

付録B 別売品および消耗品

別売品

本装置には次の別売品が用意されています。お買い求めの際は販売店に品名と次の型番をお申しつけください。

品名	型番	仕様
カートリッジテープ	EF-2413G	付録Aを参照。
カートリッジテープ	EF-2413	最大データ記憶容量: 10GB(圧縮時20GB) テープ長: 約335m(1,100フィート) 使用条件、保管条件、放置時間についてはEF-2413Gと同等。
DLTマガジン	EF-3244J	本体付属のマガジンと同一のマガジン一個。

消耗品

本装置には次の消耗品が用意されています。お買い求めの際は販売店に品名と次の型番をお申しつけください。

品名	型番	特長
クリーニングテープ	EF-3237E	本装置のヘッドクリーニングを20回行えます。
バーコードラベル	EF-3245E	バーコードラベルを使用したデータカートリッジの運用管理を行うときに使用します。

付録C 運用状況お客様記入シート

本装置を保守・管理する際に必要な情報を記録しておくメモ欄です。

項目	記入欄
基本処理装置モデル名	
オペレーティングシステム (OS) (名称、バージョン、サービスパック/パッチの適用状況)	
バックアップアプリケーション(名称、バージョン、サービスパック/パッチの適用状況)	
SCSIバス構成 (SCSI ID/同一バス上のデバイス) 装置設置環境	
装置設置環境 (温度、湿度、ホコリの状況など)	
カートリッジ種類 (メーカー名、EF型番)	
クリーニングカートリッジ種類 (メーカー名、EF型番)	
クリーニングカートリッジ使用状況 (クリーニング周期、使用回数 や使用開始月の管理方法など)	
カートリッジ使用状況 (使用回数 や使用開始月の管理方法など)	
カートリッジの管理状況	

索引

英数字

3 世代管理	31
LED	58
SCSI ID	19, 40
SCSI ケーブル	15
SCSI コネクタ	15

ア

アイコン	35
安全上のご注意	2
傷んだテープ	30
一部利用可能な状態	52
インタフェース	63
エラー情報の発見と識別	57
エラーの種類	50
エラーの状態	51
エラーログファイル	57
オートローダ情報	43
オートローダの設定	37
オペレータパネル	33
温度	63

カ

カートリッジテープ	21, 63
カートリッジテープ実装数	63
カキコミホゴスイッチ	22
各部の名称	12
記憶容量	63
クリーニング	29
クリーニングテープ	64
ケーブルの接続	15
警告ラベル	4
コンフィグレーションオプション	37
梱包箱	10

サ

時刻	41, 44
システムの起動と終了	19
湿度	63
質量	63
終端抵抗コネクタ	16
周波数	63
仕様	63
使用上のご注意	4
使用前の準備	14
障害処理ガイド	49
消費電力	63
情報の取得	43
正面マガジンからの取り出し/挿入	25
消耗品	64
診断テスト	46
スライドインスロット	23
スロット番号	27
寸法	63
設定情報	44
セットアップ	14
操作モードの選択	39
ソフトエラー	51

タ

タイムゾーン	44
データ転送速度	63
データのセーブ	31
テープ長	63
テープの取り扱い	28
テープの取り出し/挿入	25
テープを入れる	24
電圧	63
電源 ON	18
電源コード	17
電源 (スタンバイ) スイッチ	18
電源投入シーケンス	18
ドアロックタブ	30
特長	9
ドライブ情報	44
ドライブの操作	28
トラブルシューティング	49
トラブルシューティングリスト	60
取り扱い	21
取り出し情報タブ	15

ナ

内部背面スロットのテープの取り出し/挿入	27
ネスティング	33

ハ

ハードエラー	54
バーコードラベル	23, 64
廃棄	5
箱の中身	10
パスワード	38
日付	41, 44
ファームウェアリビジョン	45
フロントパネル	12
フロントパネルステータス情報	34
フロントパネルディスプレイ	34
別売品	64
ホームスクリーン	34
放置時間	63
保護用部材	14
ホストソフトウェア	56
本書の構成	1

マ

マガジン	13
マガジンのラベル位置	24
メディアのエラー	56
メニューツリー	36

ラ

ラベル	23
リーダーの位置	30
リアパネル	13

N8160-29/N8160-30

外付DLT集合型/DLT集合型(ラックマウント用)
取扱説明書

2001年 6月 初版

2002年 1月 第2版

日 本 電 気 株 式 会 社

東京都港区芝五丁目7番1号

TEL(03)3454-1111 (大代表)

© NEC Corporation 2002

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

このマニュアルは再生紙を使用しています。

NEC

N8160-29/N8160-30
外付DLT集合型/DLT集合型(ラックマウント用)

取扱説明書

856-850080-A